

第8期北海道総合開発計画の推進施策と 北海道の将来ビジョン

平成30年2月9日
北海道産学官協力懇談会

北海道開発局長 和泉晶裕

北海道総合開発計画の推進

北海道の現状、課題を踏まえ、今後おおむね10年間に
取り組む施策の内容をとりまとめたもの

北海道総合開発計画(第8期)のポイント

北海道の現状

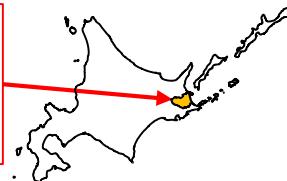
◎北海道は我が国の食料供給基地 食料自給率: 221% (全国39%) (H27)

全国1位の生産量の主な農水産物(H27)

- ほとてがい: 36.7万t(全国の76%)
- ばれいしょ: 191万t(79%)
- 生乳: 390万t(53%)

【例:別海町】

- 東京23区の2倍の面積
- 人口1.5万人
- 約500万人分の生乳を生産

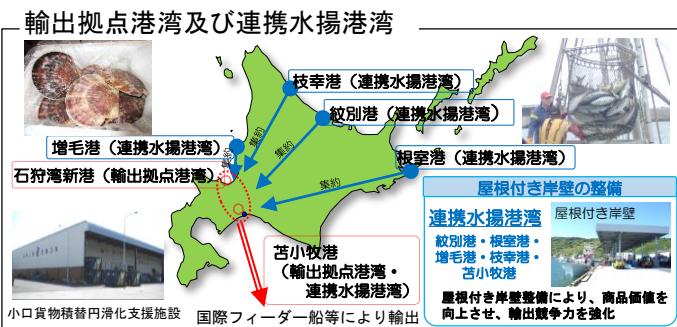


◎食の輸出、外国人観光客も増加傾向

道産食品輸出額: 7年で約3倍に



来道外国人旅行者数: 13年で約8倍に



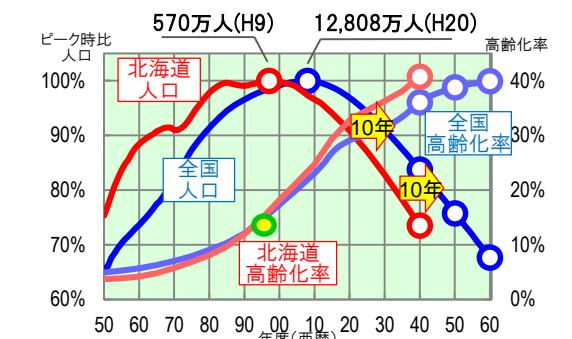
日本の観光地への訪問意欲 (複数回答)

	アジア全体	中国	台湾	香港	韓国
1位	東京 45%	富士山 51%	北海道 52%	北海道 53%	東京 39%
2位	北海道 43%	東京 47%	京都 47%	大阪 42%	大阪 35%
3位	富士山 41%	北海道 44%	東京 43%	沖縄 42%	北海道 30%
4位	大阪 37%	京都 38%	大阪 42%	東京 40%	京都 30%
5位	京都 34%	大阪 34%	沖縄 36%	富士山 36%	札幌 29%

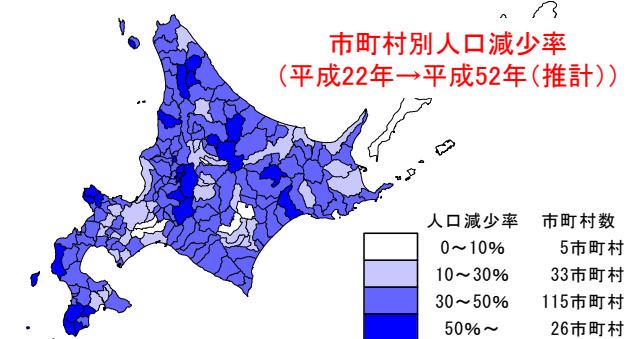
課題

◎北海道の人口減少は全国よりも10年程度先行

全国よりも10年先んじて人口減少が進展



2040年には8割の市町村で3割以上減少

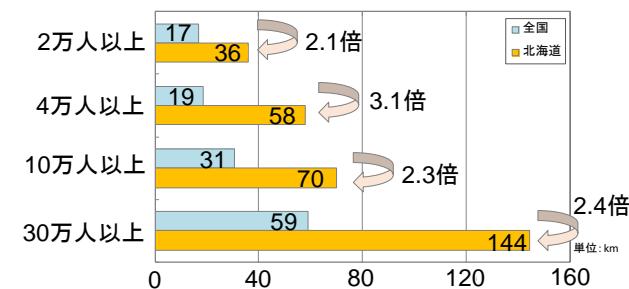


◎本州等とは距離感の異なる広域分散型社会

北海道の広さ



最寄り都市までの平均道路距離(km)



将来に向けた北海道の成長の核

「食」「観光」が戦略的産業

～人口減少時代にあっても、

- ① 北海道には世界と競争し得るポテンシャル
- ② アジアなど世界の市場が拡大傾向

農林水産業、観光等を担う「生産空間」を支え
「世界の北海道」を目指す

第8期計画の重点的取組

① 人が輝く地域社会の形成
(北海道型地域構造の保持形成)

② 人流・物流ネットワークの整備
(北海道新幹線、高規格幹線道路網、
空港、港湾等)

③ 強靱で持続可能な国土づくり
(安全・安心な社会基盤)

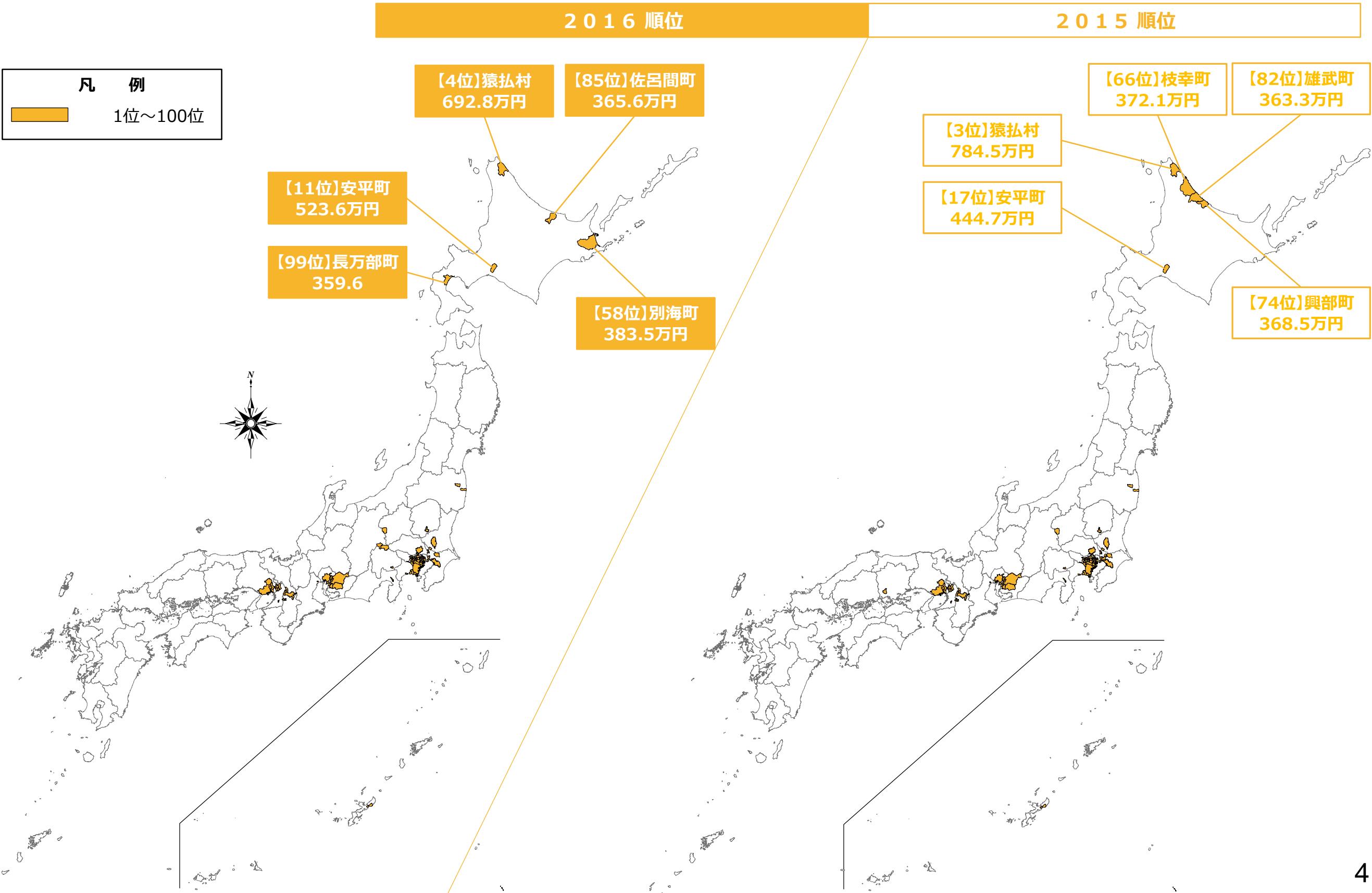
北海道版コンパクト+ネットワーク
(基礎圏域)



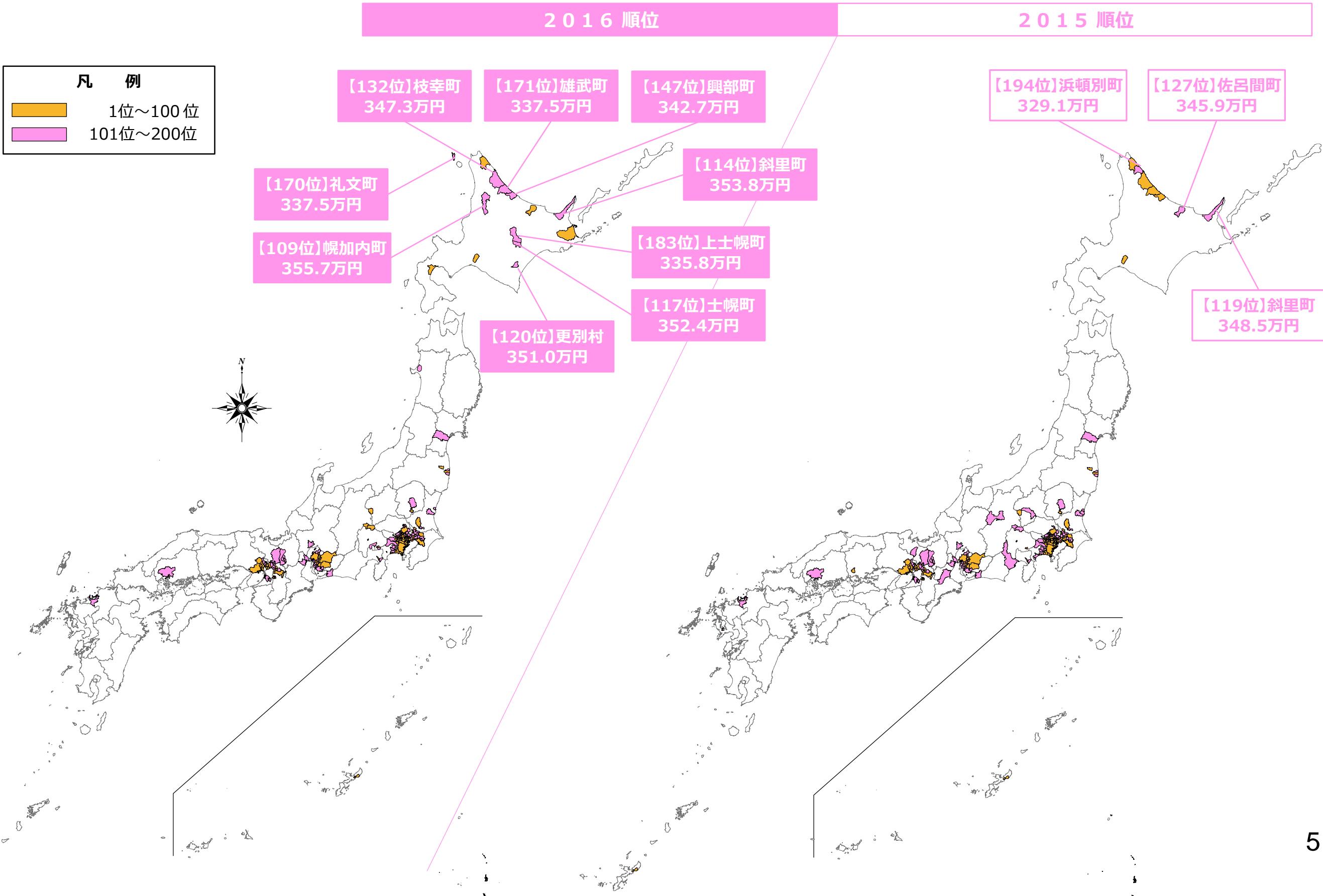
北海道の交通ネットワーク



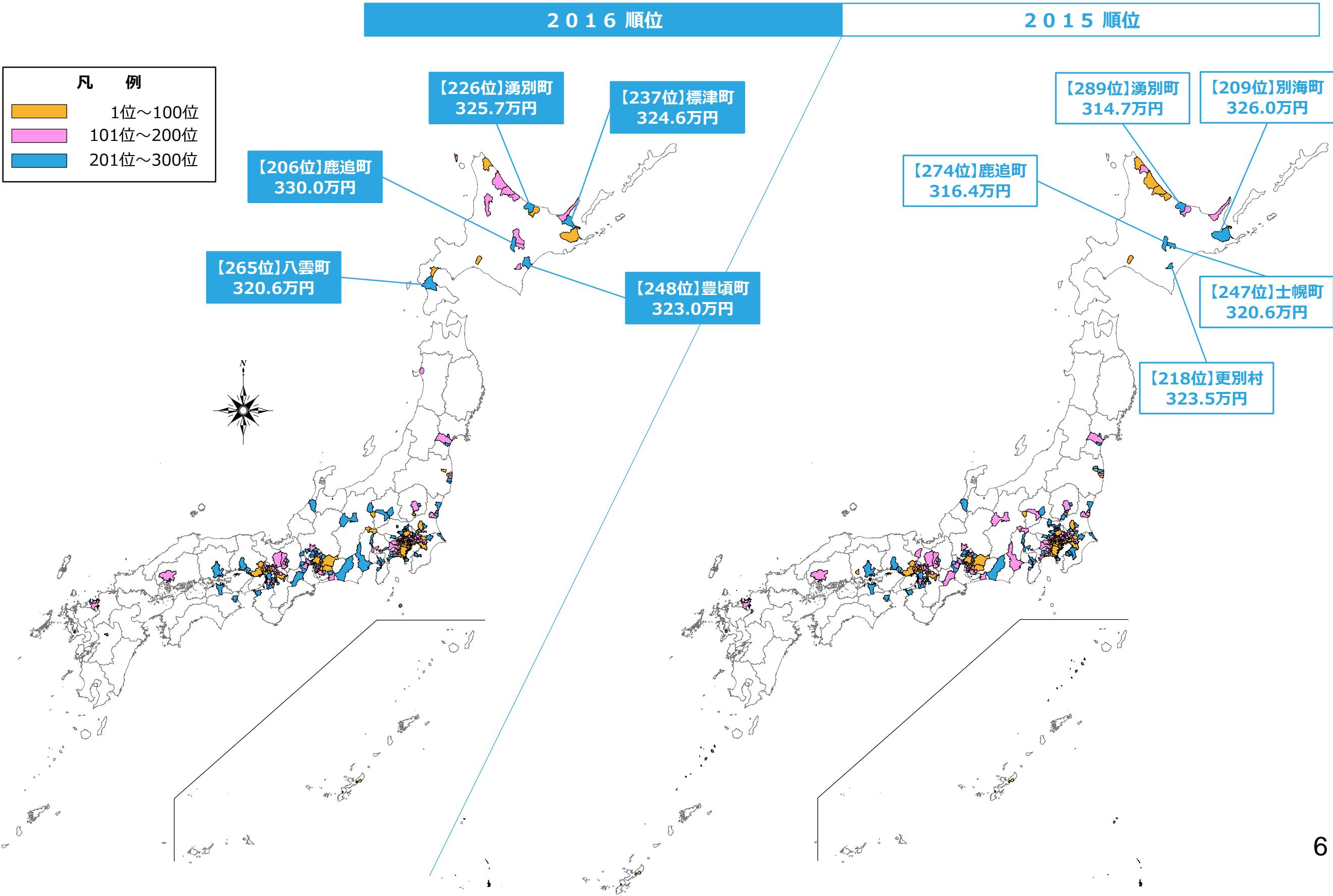
全国市区町村別平均所得額順位2016(全国) 100位内



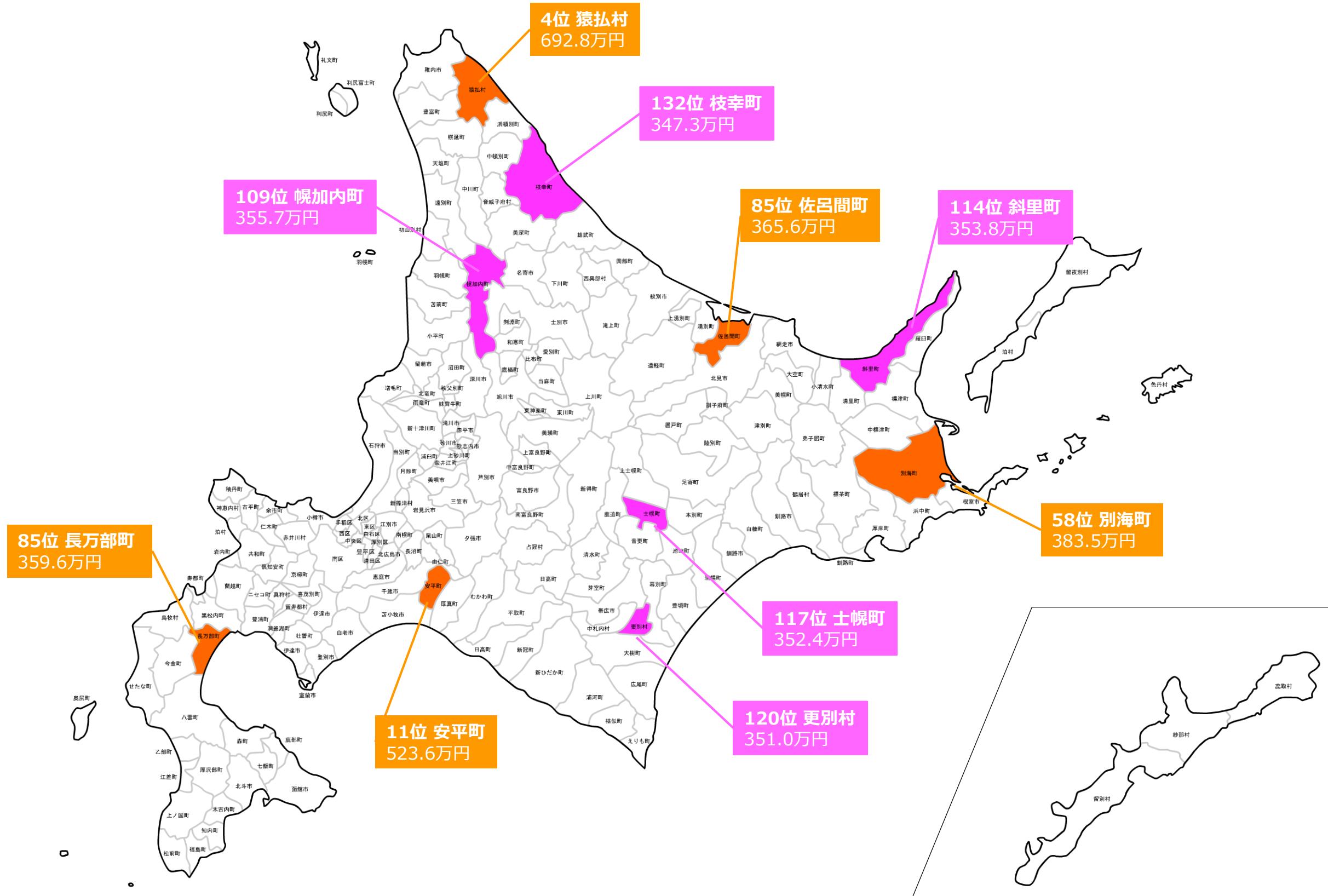
全国市区町村別平均所得額順位(全国) 200位内



全国市区町村別平均所得額順位(全国) 300位内



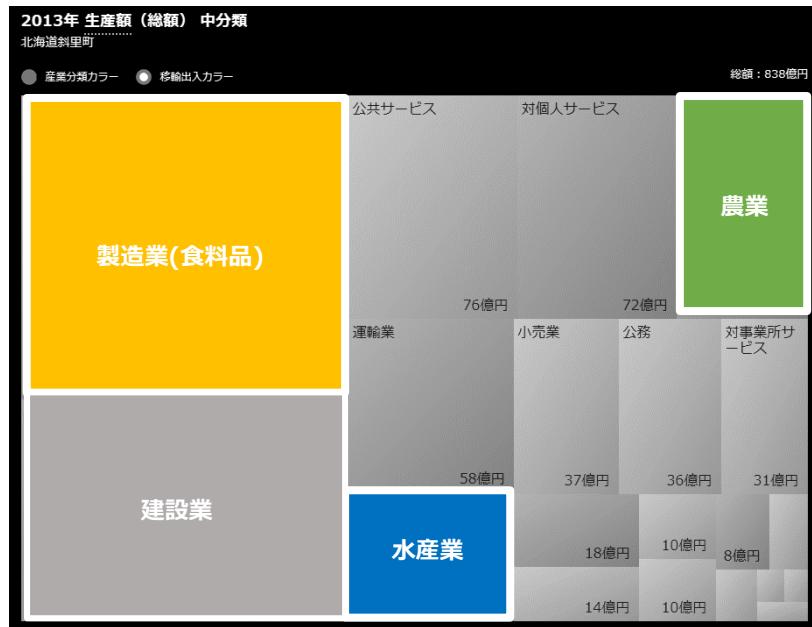
全国市区町村別平均所得額順位2016(北海道上位10位)



産業構造から見る生産空間

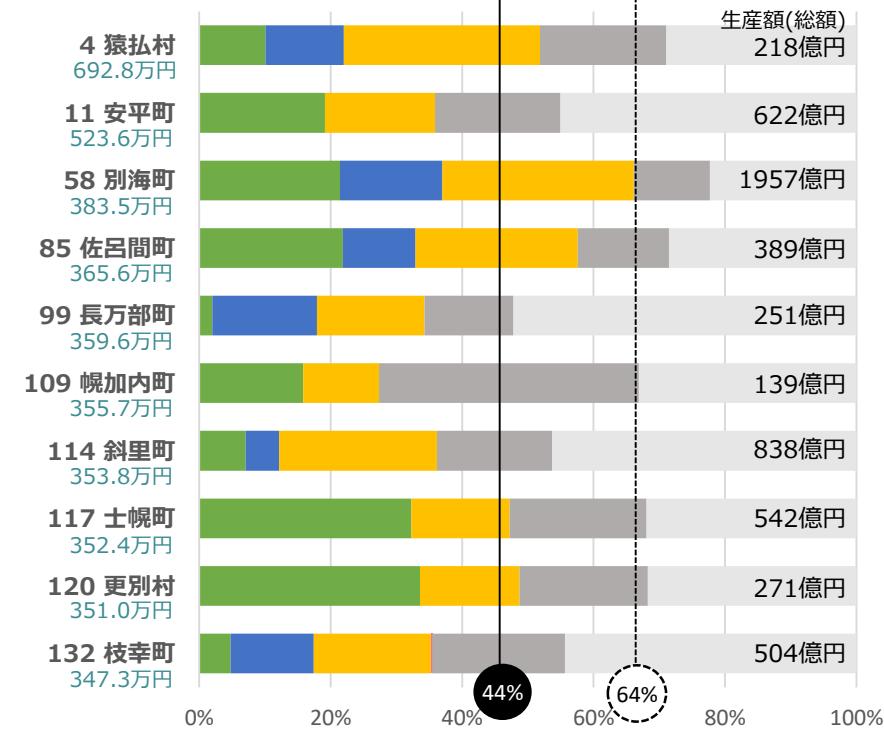
- 平均所得の上位の町村の産業構造は、農業、漁業の第1次産業、また、それを原料とした製造業(食料品)の生産額が大きい。
- 生産空間を支える産業であり、上位10町村と下位10町で、4産業の平均値に大きな差。

RESASによる産業構造 (例 斜里町)



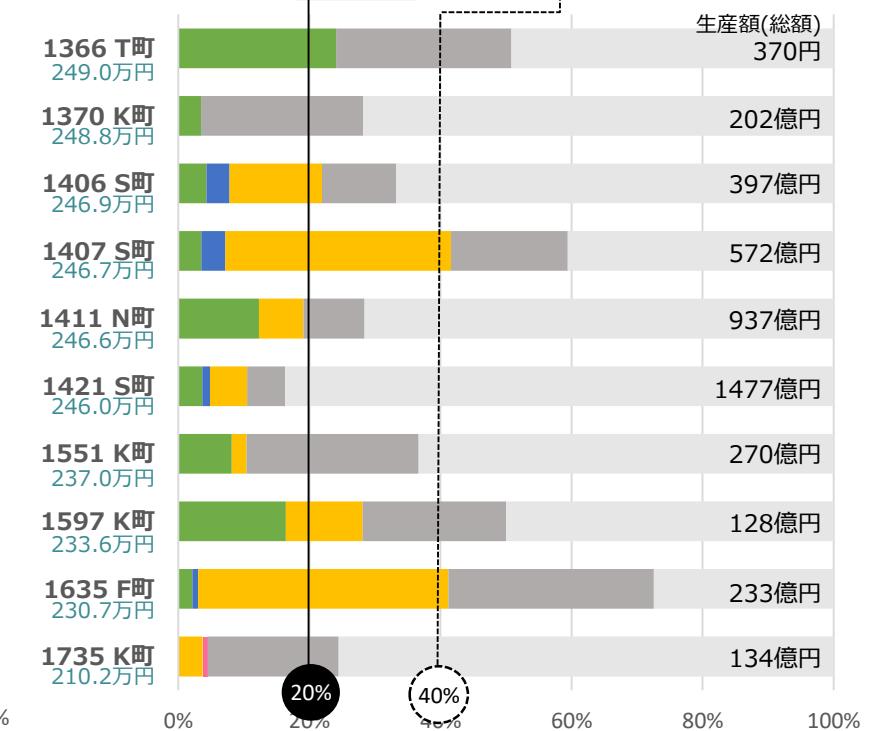
地域経済分析システム (RESAS : リーサス)
経済産業省と内閣官房(まち・ひと・しごと創生本部事務局)提供

平均所得北海道 上位10町村



※町村名前の数値は、全国順位。

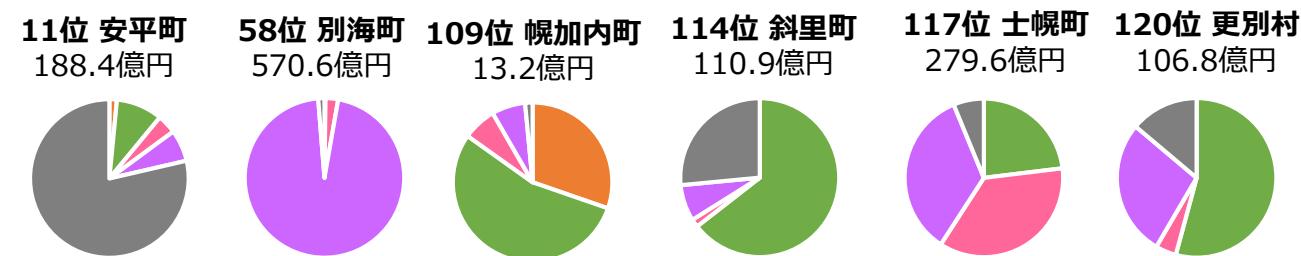
平均所得北海道 下位10町



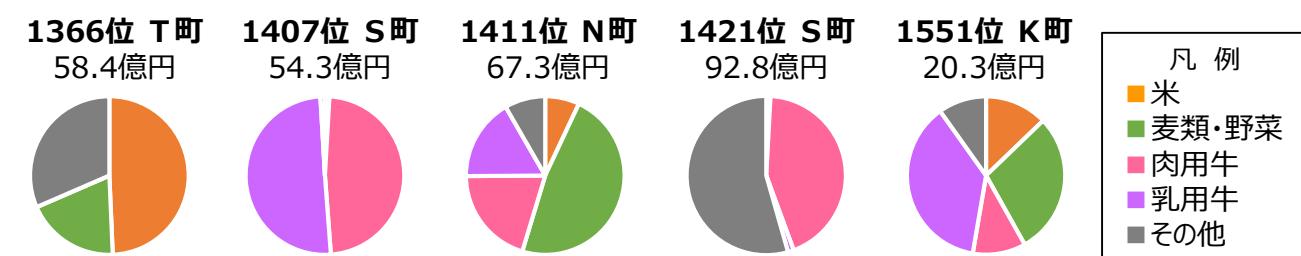
- 農業について、上位町村については、畑作、酪農を中心に大規模化が行われ、算出額が大きい。
- 漁業について、上位町村は、ホタテ、サケの2つで約8割の生産額を占める。

農業算出額構成

平均所得北海道 上位10町村(代表事例)

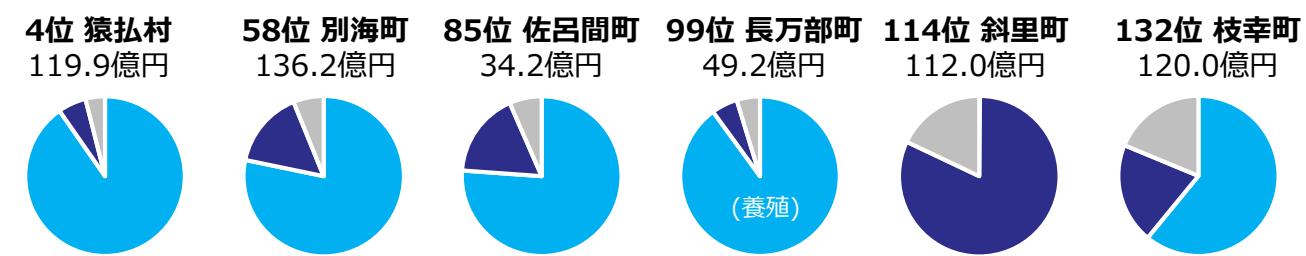


平均所得北海道 下位10町(代表事例)

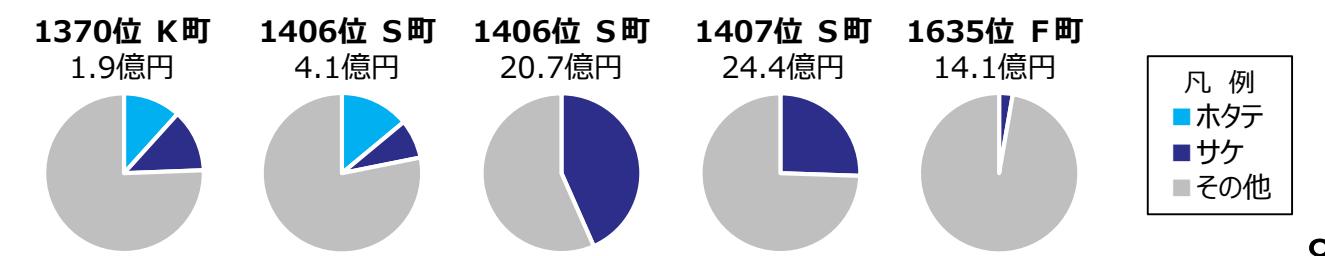


漁業生産額構成

平均所得北海道 上位10町村(代表事例)



平均所得北海道 下位10町(代表事例)

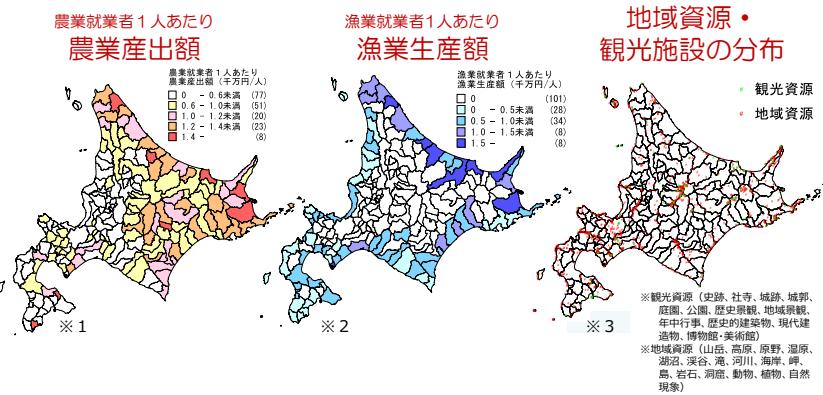


北海道型地域構造の保持・形成

○北海道の「生産空間」は、主として農業・漁業に係わる場として、食料供給に大きく貢献し、観光その他多面的・公益的機能を提供。これからも**その役割を果たし続ける**とともに、**それを支える人々が住み続ける**ことが必要。
○このため、都市機能・生活機能が日常生活に支障のない水準で提供される「基礎圏域」を形成し、「生産空間」での暮らしを**広域的に支えつつ**、人々の活発な対流を促進。

北海道の「強み」を支える「生産空間」

「生産空間」は、広大な農地や豊富な水産・森林資源を強みとして、我が国の食料供給基地として貢献するとともに、豊かな自然環境、特徴ある景観等を提供している。



「生産空間」は主に北海道の地方部に分布

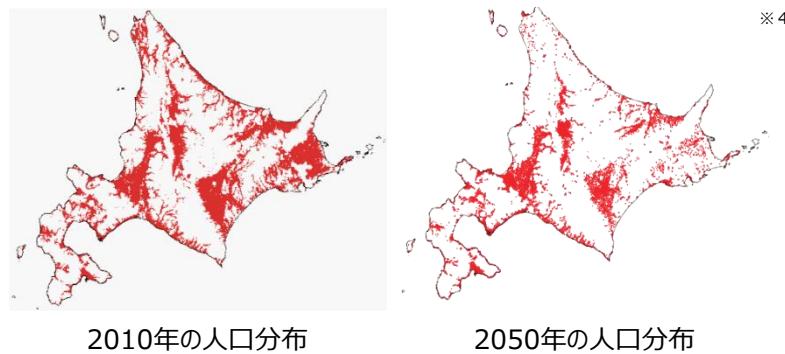


(設定例の詳細等については国土審議会北海道開発分科会計画部会 第2回 (H27.3.26) 資料2 p.9~10参照)

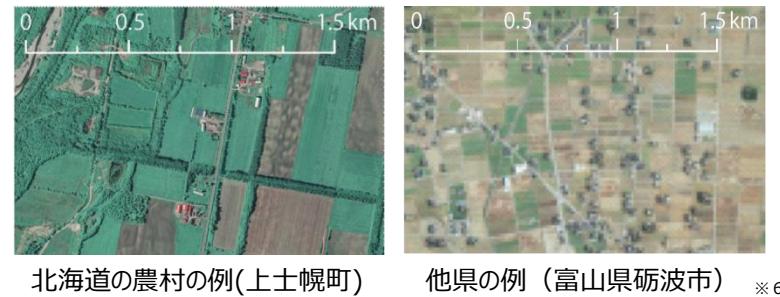
生産空間：主として農業・漁業に係る生産の場（特に市街地ではない領域）を指す。生産空間は、生産のみならず、観光その他の多面的・公益的機能を提供している。

「生産空間」を取り巻く現状と課題

人口減少・高齢化の急速な進行 半数が無人化の危機 ※4



散居形態 集落の74%が散居型 ※5



このような状況下では、生活施設まで遠く、公共交通の運営が困難など、人口定着には不利な環境

このままでは将来
北海道の「強み」を提供できなくなる可能性

今、まさに「生産空間」の維持・発展が急務

地域構造の望ましい姿 ～「生産空間」のサバイバル～

北海道の「強み」を支える「生産空間」として、10年後も、2050年も**その役割を果たし続ける**とともに、**それを支える人々が住み続ける**ことが必要

そのためには「定住環境の確保」が必須

頼り頼られる3つの層の「重層的な機能分担」と「ネットワークによる連携」(北海道版コンパクト+ネットワーク)で課題に対応

下記の観点についての取組を有機的・総合的に実施。

所得・雇用の確保

地域の魅力向上

生活機能・集落機能の確保

安全・安心な社会基盤の形成

生産空間(農林水産や観光等を担う地域)

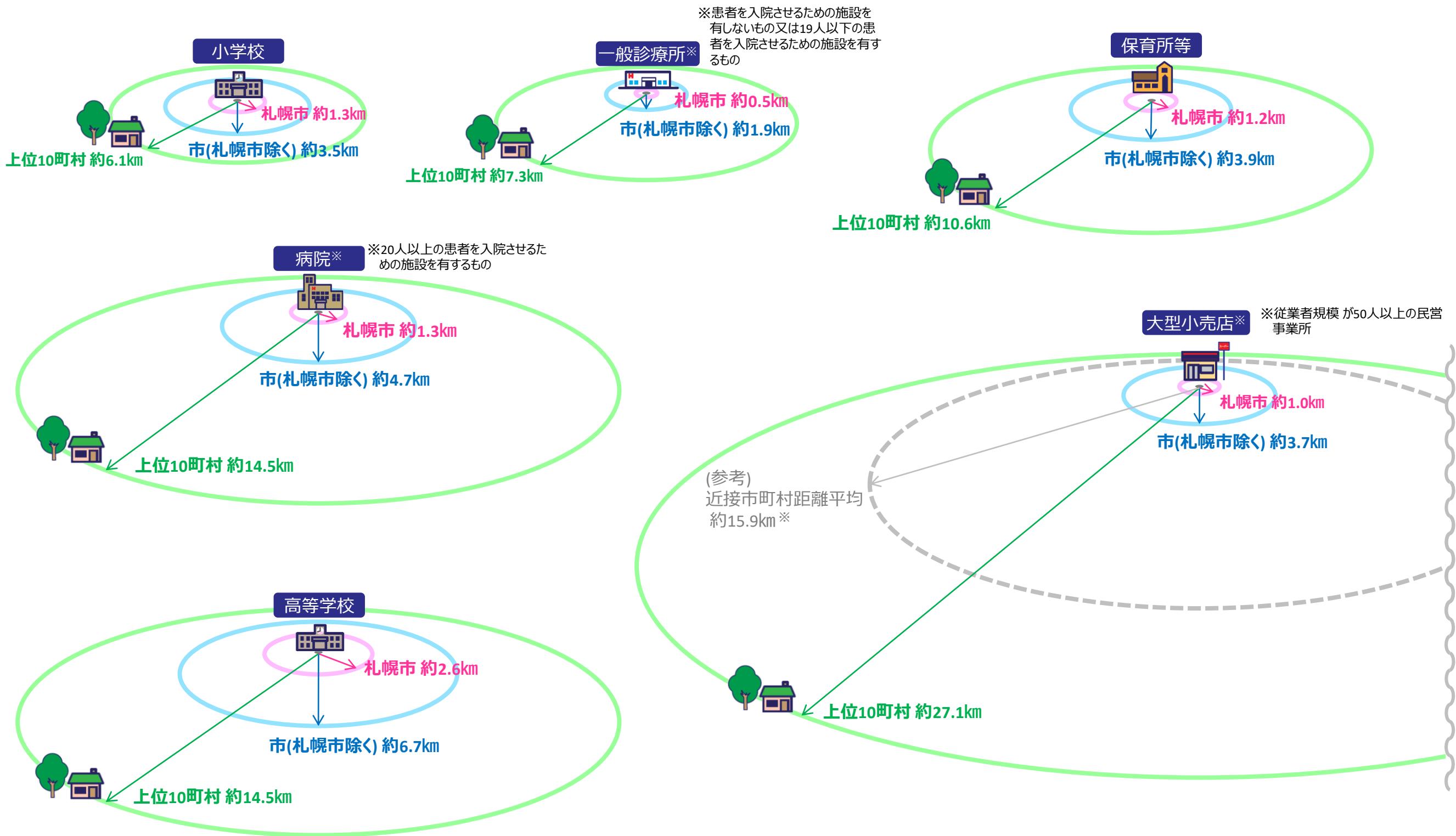


北海道型地域構造(基礎圏域)～頼り頼られる3つの層～

※1 出典：農林水産省「H18生産農業所得統計」、総務省「H22国勢調査 産業別人口」 ※2 出典：北海道水産林務部「H24北海道水産現勢」、総務省「H22国勢調査 産業別人口」 ※3 出典：「観光資源台帳」(財)日本交通公社が事務局として設置した「観光資源評価委員会」が検討・選定し作成)を基に作成
 ※4 出典：総務省「H22国勢調査」、国土交通省「国土数値情報(土地利用3次元メッシュ) 第2.3版」、「国土数値情報(将来推計人口メッシュ(国政局推計))」を基に作成。
 ※5 出典：竹内慎一(北海道立総合研究機構北方建築総合研究所)「北海道の集落の実態分析による地域防災力に関する評価指標の検討」地域安全学会論文集(14),pp37-46,2011-03 ※6 写真：NTT空間情報(株)

生産空間における生活関連施設間の距離

- 北海道内の町村は、人口密度が小さく、また、生活に必要な病院、学校、小売店などの施設が少なく、点在。
- 平均所得上位10町村にあっても、札幌市、道内市(札幌市を除く)と比較しても施設までの距離が長い。



最も近接する市町村への役場間所要時間(H18 北海道市町村課) 19.11分
自動車時速 50km/h
市町村距離 19.11分/60分×19.11 = 15.9km

雇用

生活環境

魅力

安全・安心

北海道の「生産空間」は、主として農業・漁業に係る生産の場として、我が国の食料供給に大きく貢献し、観光その他の多面的・公益的機能を提供しており、今後もその役割を果たし続けるためには、「生産空間」に住み続けられる環境づくり(基礎圏域の形成)が必要

<頼り頼られる3つの層(基礎圏域)>

生産空間(農林水産や観光等を担う地域)



地方部の市街地(生活サービスを担う地域)

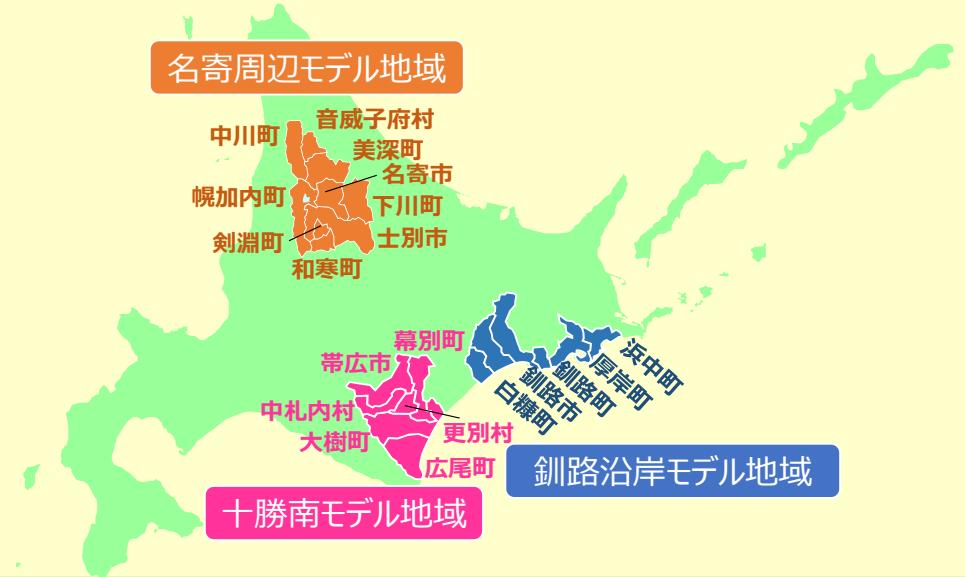


圏域中心都市(高次の医療を担う都市)



モデル3圏域における生産空間の特徴

『圏域検討会』を発足する「道内3圏域」については、生産空間における産業構造や地理的特性を踏まえて、以下の3つをモデル的に選定。



名寄周辺

産業構造：稲作その他
地理的特性：内陸（分散型）



- 稲作・畑作のほか、酪農や林業等、多彩な一次産業が見られる。
- 圏域内各層間で一定の依存が見られるほか、医療面での圏域とは別の圏域への購買依存があるなど、行動が多様。

十勝南

産業構造：畑作・酪農（大規模経営）
地理的特性：内陸（集中型）



- 主に畑作や酪農などで大規模経営がなされている。
- 圏域中心都市に都市機能・生活機能が集積しており医療面、購買面とも圏域中心都市への依存度が高い。

釧路沿岸

産業構造：酪農・水産業（港湾・漁港機能を有する）
地理的特性：沿岸（集中型）



- 生産空間（漁港）と市街地が隣接しており、圏域内に点在している。
- 圏域中心都市に都市機能・生活機能が集積しており医療面、購買面とも圏域中心都市への依存度が高い。

【地域構造のイメージ】

【この圏域の特色】

生産空間を支える取組イメージ

○生産空間は、主として農業・漁業に係る生産の場として、我が国の食料供給に大きく貢献し、観光その他の多面的・公益的機能を提供
○今後も**その役割を果たし続けるためには、都市機能・生活機能が日常生活に支障のない水準で提供される基礎圏域を形成し、生産空間での暮らしを広域的に支えつつ、人々の活発な対流を促進するなど、生産空間に住み続けられる環境づくりが必要**

現状と課題

所得・雇用の確保

- ・人口減少・高齢化の進行
- ・生産空間の無人化
- ・農家戸数の減少
- ・新技術・経営形態の革新などの必要性
- ・水産資源の維持・確保の必要性
- ・付加価値向上の必要性
- ・生産性向上の必要性

生活機能・集落機能の確保

- ・医療・教育等の生活機能のある都市へのアクセス距離が課題
- ・生産空間の集落機能が低下
- ・高齢者や要介護者に対応した環境づくり

地域の魅力向上

- ・市街地への集住は生産空間の多面的な機能を減じる懸念
- ・生産空間での定住・交流が必要
- ・子育て世代に対応した環境づくり

安全・安心な社会基盤の形成

- ・気候変動により自然災害が頻発、激甚化
- ・生産空間の被災により食料供給基地の役割の消失の懸念
- ・インフラの老朽化

施策例

ICTやロボット技術を活用したスマート農業

農地の大区画化、汎用化

衛生管理の取組推進、養殖・栽培漁業の普及

集落コミュニティの維持・連携

持続可能な人流・物流システムの構築

住民ニーズに対応した移動手段の維持・確保

移動販売、買物代行等の交通弱者の支援対策

交通ネットワーク・情報通信環境の整備

地域資源を活用した交流拡大

移住、二地域居住等の促進

地域住民と行政の連携・協働によるインフラ維持・管理

水害・土砂災害、地震・津波への対応

行政、住民、民間事業者等の連携体制の構築

国土強靱化に資するインフラ老朽化対策の推進

具体的な取組（例：社会資本を活用したもの）

イノベーションによる農林水産業の振興



G P Sを利用した農業の導入

高度な衛生管理体制の構築



屋根付き岸壁の整備

交通ネットワークの整備 持続可能な人流・物流システム構築 救急搬送支援



高規格幹線道路の延伸



「ひと・もの」協働輸送プロジェクトによる貨客混載の例（北海道運輸局）



道路管理ステーションを活用したドクターヘリのランデブーポイント

地域活動団体の取組 地域資源の活用



ビューポイントパーキング



砂防えん堤の整備により出現した「青い池」



稚内港北防波堤ドームでのスノーキャンドルイベント

生産空間を支える社会基盤整備 インフラメンテナンス国民会議の取組

河川堤防の完成化 平成22年

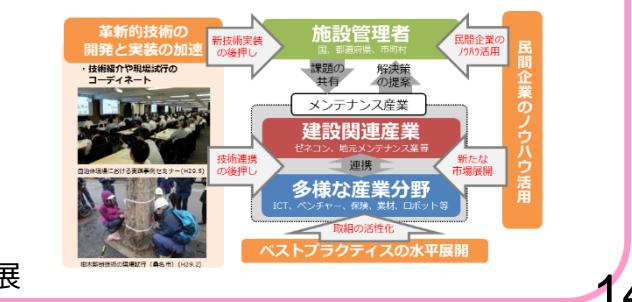
昭和63年

河川堤防

ビニールハウス群

〇ハウス

治水対策の進捗により、高収益作物栽培のためのビニールハウスの立地が進展



道の駅「コスモール大樹」を拠点とした自動運転サービス実証実験

○平成29年12月11日(月)～16日(土)、北海道内において冬期の積雪条件下では初めてとなる実証実験を実施し、モニターとして大樹町民等、約120名が乗車

実験車両

(先進モビリティ(株)開発、20人乗りバスタイプ)



実験車両の内部



車両外部のセンサー (降雪時の通信状況を検証)



GPS受信感度の状況

モニター乗客の利用状況

(地域の足の確保)



貨物の運搬状況

(円滑な地域内物流の支援)



道の駅から住宅への商品等の配送

車両走行状況

(自動運転に必要なとなる道路の管理水準)



道の駅「コスモール大樹」を拠点とした自動運転サービス実証実験

<報道状況>



自動運転のバスに試乗した町民モニター

大樹の実証実験

【大樹】町内で実施中の国土交通省による自動運転サービスの実証実験で、11日から町民モニターによる試乗調査が行われている。試乗者からは「実用化されれば免許返納後に使いたい」「雪道なら自分の運転より安全そう」と期待の声が聞かれた。

自動運転バス「安全」

モニター試乗 雪道もすいすい

実験は高齢化が進む地域の移動や物流確保のため今年、全国各地で実施。実施地域は公募で決定し、大樹は道内で唯一選ばれた。11日は道の駅「コスモール大樹」を20人乗りのバス型車両が出発し、1周7・6キロのコースを4便が運行。初便は町民モニター10人が乗車した。

自動運転は、全地球測位システム（GPS）や、道路に埋めた磁気目印で位置を把握し、レーザで障害物を検知する仕組み。信号での停止は手動だが、国道の一部で前方の信号を予測し、自動で減速するシステムも試験された。

この日は前日夜からの雪も残る状況だったが、バスは設定されたコースに沿って、右左折、一時停止、車線変更などもこなした。駐車場の旋回中、駐車位置からはみ出した車があったり、バス停付近に路上駐車があった場合などは手動運転に切り替えた。



初便に乗った町内の田野護さん（78）は「ここまでできるのかと驚いた。自動運転は荷物かと思っていたが、現実味を感じた。もう少し免許を返納しようと考えているので、実用化されれば大いに歓迎したい」と話した。

自動運転 運転手がハンドルを操作しなくても人間の代わりに自動で運転するシステム。国は東京五輪・パラリンピック開催の2020年までの実用化を目指している。十勝の公道での実験は、10月に上士幌町で町や民間団体によっても行われた。

他の一般車両と一緒に町内の国道236号を走行する自動運転バス

親子で乗車した町内の会社員鈴木清香さん（33）は「（自動で動く）ハンドルを見ていたが、面白い。週2回帯広に子どもと通院しているのでも、使えたら。自分の運転より安心できそう」と話していた。

モニターには自動運転や公共交通に関するアンケートを実施。モニターによる乗車は15日まで、実験は17日までを予定。（富尾敦）

平成29年12月13日 十勝毎日新聞（日刊16面）

国土交通省の自動運転実証実験が10月17日、大樹町で行われています。小型バスで町内約7キロのルートを走る町民試乗会もあり、11日には私も参加しました。

試乗当日に雪が降り、走行可能か心配でしたが、圧雪路面でも安全走行なのに驚きました。地域をよく知る人が一応運転席に座っているのですが、ほとんど自動運転で走行できるのです。交差点を右左折する時は、自動ブレーキが2度かかります。安全確認のためだ

自動運転車に高まる期待

主婦 中村 稔枝 70
（十勝管内大樹町）

そう。残念ながら雪道で北海道の人が踏むほど優しいブレーキではありませんが、私が運転するよりずっと安全かもしれません。

もしこの自動運転バスが毎日町内を走るようになれば、利便性は計り知れません。お年寄りが一人で公共施設、図書館、体育館などに行くのに、大きな助けになるでしょう。町外から食品の配達をお願いしている人も、大樹の商店街で買い物しやすくなります。

自動運転車が過疎地域の交通網を支えるようになるのを、わくわくしながら待っています。

平成29年12月14日 北海道新聞（朝刊6面）

自動運転車が町内を走るようになれば、高齢者の外出の大きな助けになるでしょう。自動運転車が過疎地域の交通網を支えるようになるのを待っています。（70歳 女性）

自動運転実用化の現実味を感じました。もうすぐ免許を返納しようと考えているので、実用化されれば大いに歓迎したいです。（78歳 男性）

週2回の帯広への通院に使えたらと思います。自分の運転より安心できそうです。（33歳 女性）

読者の声



物流の課題(名寄周辺モデル地域)

- ◆ 宅配事業については、貨物量が少なく、採算性の向上が必要
- ◆ 出荷量と入荷量のバランスが悪く、片荷輸送が恒常化
- ◆ 農水産品の輸送は季節差が大きく、片荷輸送の一因になるとともに、トラックやドライバーの安定した確保が困難

宅配事業の存続や、輸送の効率化による産業の競争力強化に向け、圏域検討会で議論

課題解決に向けた取組の例

- 貨物の集約や、複数荷主の貨物混載による輸送の効率化
- 路線バスの空席スペースを活用し、宅配貨物の物流サービスを提供するシステム(貨客混載)を構築

【貨客混載の取組】

実証実験に続き本格運行 (平成28年度~)

- [道北地区] 3路線・名士バス(株)・士別軌道(株)
- [十勝地区] 1路線・十勝バス(株)

平成29年度から本格運行

- [空知地区] 6路線・空知中央バス(株)
- [宗谷地区] 1路線・沿岸バス(株)
- [オホーツク地区] 1路線・北紋バス(株)
- [旭川地区] 1路線・旭川中央ハイヤー(株)
- [北見地区] 1路線・北海道北見バス(株)

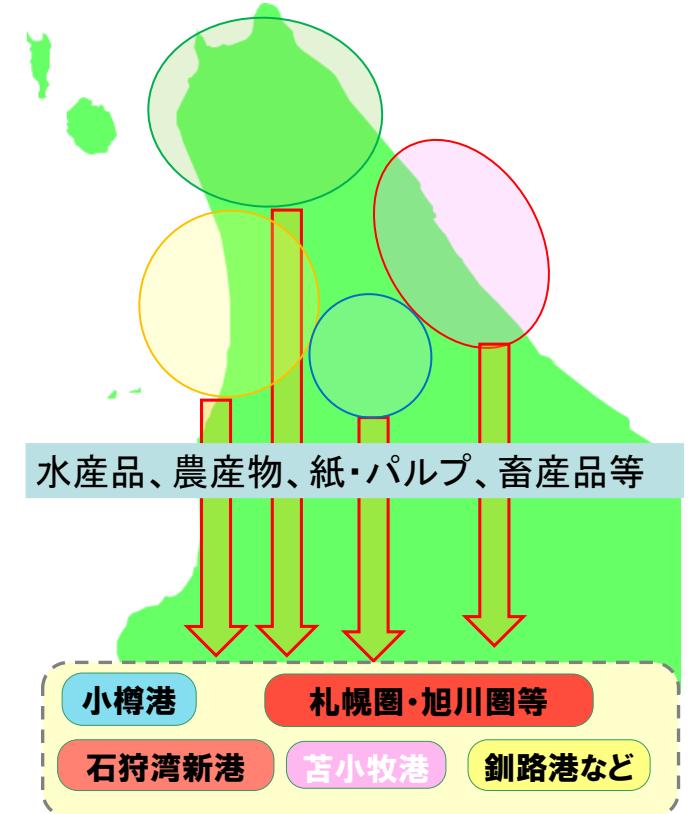
※その他の路線においても運行開始に向けて調整中



※バス車両の改造は行わない



道北北部の各地域からの個別輸送イメージ



- 人口減少、高齢化が進む地域では、
- 小規模経済の運営を可能とする生産性アップ
 - 住民が複数の役割を果たし地域魅力アップ
 - 安全、安心のアップ

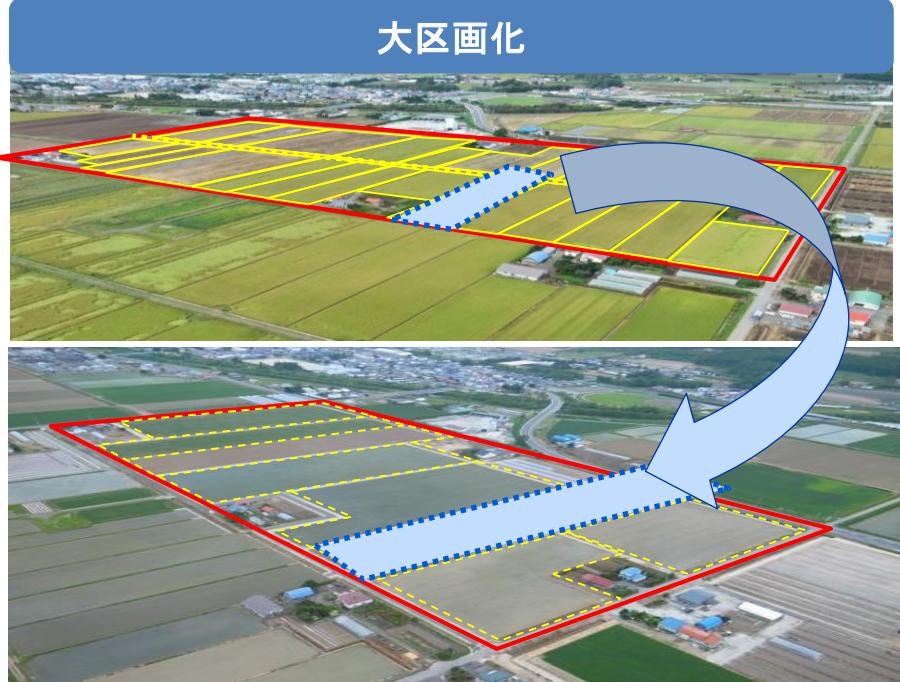
をしっかりと議論すべき！

「食」を支える農水産基盤の整備

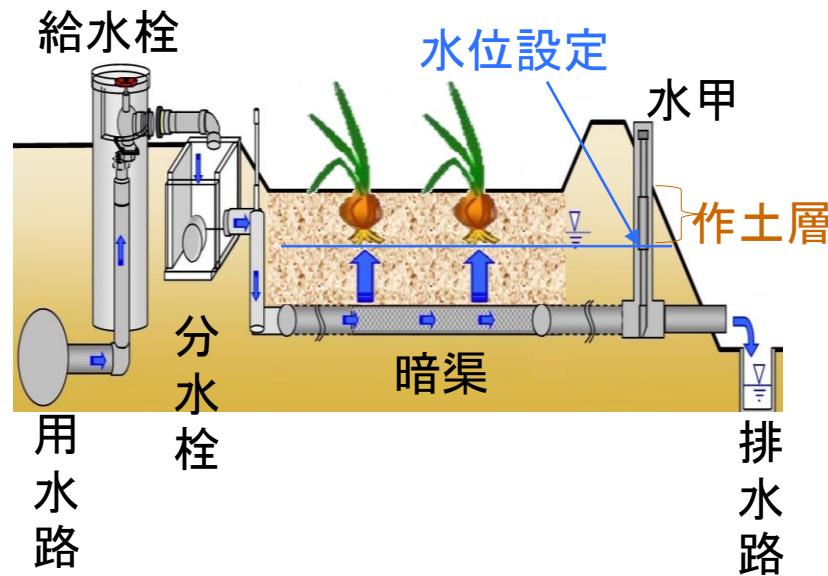
北海道のリーディング産業の生産性向上には、栽培技術向上と基盤整備の両輪が重要

ほ場の大区画化とあわせて、地下水位制御システムを導入することにより、水管理の大幅な省力化と生産性の向上を実現

ほ場の大区画化と高収益作物の導入(富良野盆地地区事例)



地下水位制御システム



- 0.5ha程度から2ha規模の大区画化と排水改良により、大型機械作業の効率化。
- 大区画化とともに、地下水位制御システムを導入し、**営農の省力化を進め、玉ねぎ等の高収益作物への転換を推進**

玉ねぎの収益性を向上



- 適切な水管理により、玉ねぎの収量の増加、品質の向上
- 玉ねぎ苗の植付けと収穫に、JAのコントラクター事業を導入し、営農を省力化。

玉ねぎの規格の変化



高収益作物(玉ねぎ等)の生産拡大による農家所得の増加 地域の農業粗収益の変化



戸当たり農業粗収益の変化

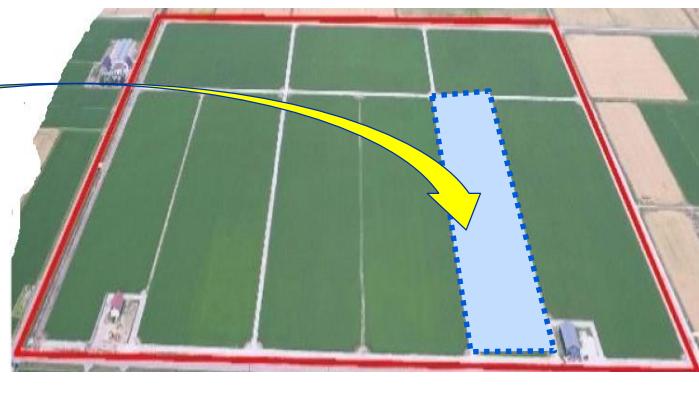


- 玉ねぎの収益性の向上と作付増(672ha→784ha:112ha増)等により、**農業粗収益は23%(13億円)、農家戸あたりの粗収益は59%の増加**

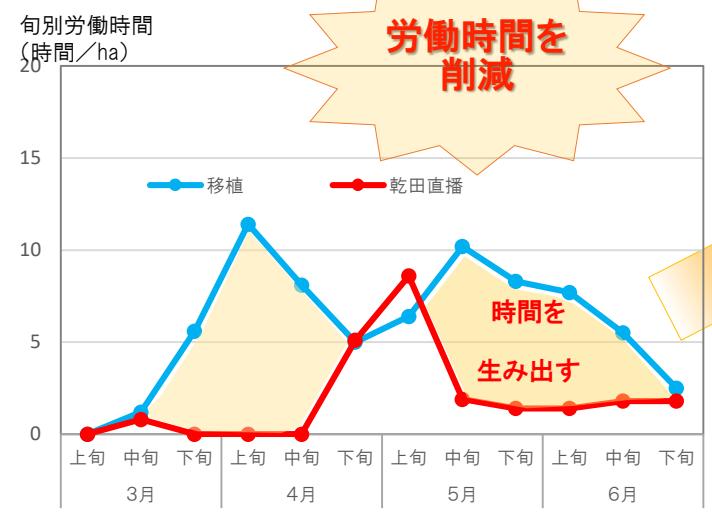
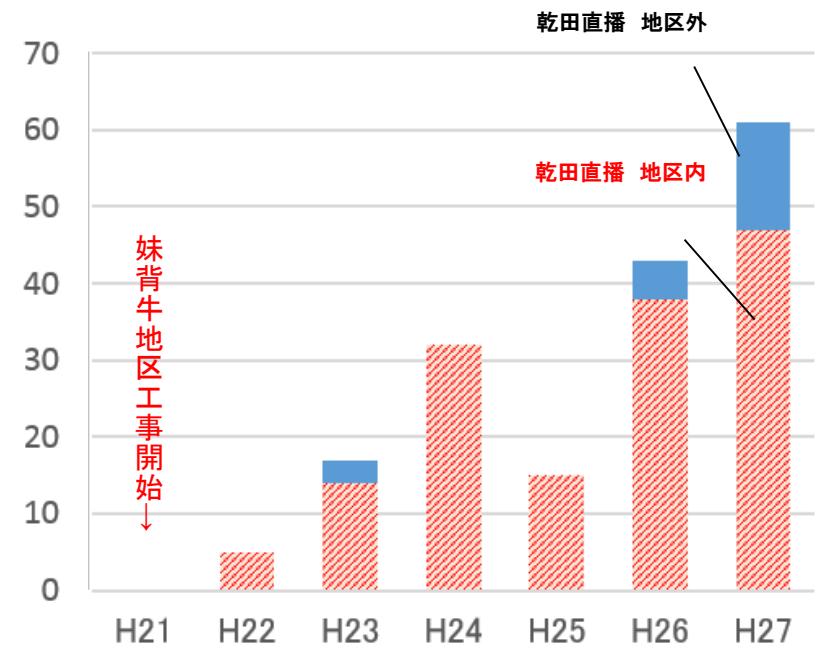
ほ場の大区画化と水稲直播の拡大に向けた取組(妹背牛地区事例)

- 0.5ha程度から2ha規模の大区画化にあわせて地下水位制御システムを導入。
- 地区着工を契機に、水稲の**乾田直播面積が増加**。約8割は地区内(47ha(H27))で実施。
- 水稲の乾田直播では育苗及び代かきが不要で、**労働時間のさらなる省力化が実現**。
- 生み出した時間を活用し**花き栽培の取組みが進展**

地下水位制御システムにより、水稲乾田直播に適したきめ細やかな水張り可能に

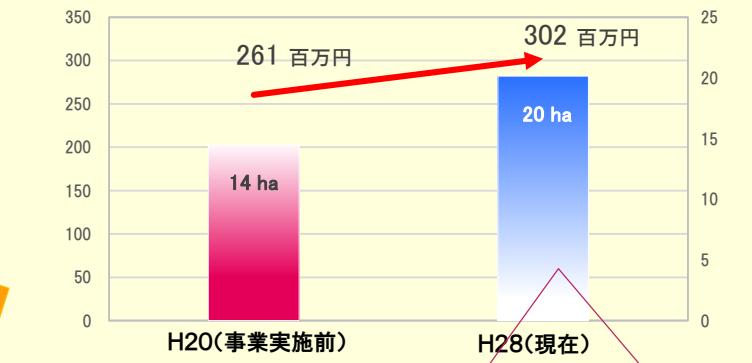


【水稲の乾田直播面積の推移】



労働時間を削減

【妹背牛町の花き栽培状況】



資料: 妹背牛町調べ
・労働時間が削減されたことにより、スターチスの生産拡大に加え、観賞用かぼちゃの栽培を開始。



資料: 妹背牛町調べ

資料: 北海道農業生産技術体系第4版
(水稲: 移植成苗ポット苗、乾田直播、湛水直播の数値を図化)

- 大区画化に伴い、GPSガイダンス等の新技術の導入が進み、更なる省力化を実現
- 大区画ほ場を利用した圃場水管理システム(自動制御)や無人ロボットコンバインの実証試験も行われており、大区画化がICTによる農業技術の革新を促進

GPSガイダンスシステム等の導入効果

- ① 作業の重複が少なく機械作業のロス減少
- ② 資材・肥料・農薬の低減
- ③ 精度の高い安全な夜間作業が実現
- ④ 身体的な疲労が軽減

代かき作業の状況→
(GPSガイダンス活用)

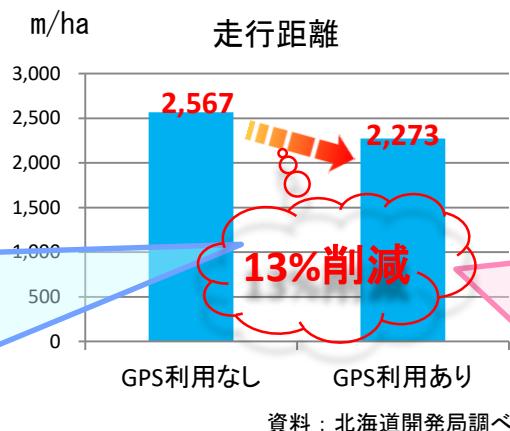
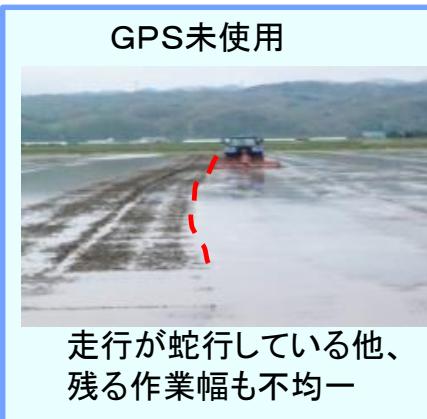


自動操舵システムにより、**移動中でも苗の補給が可能に**

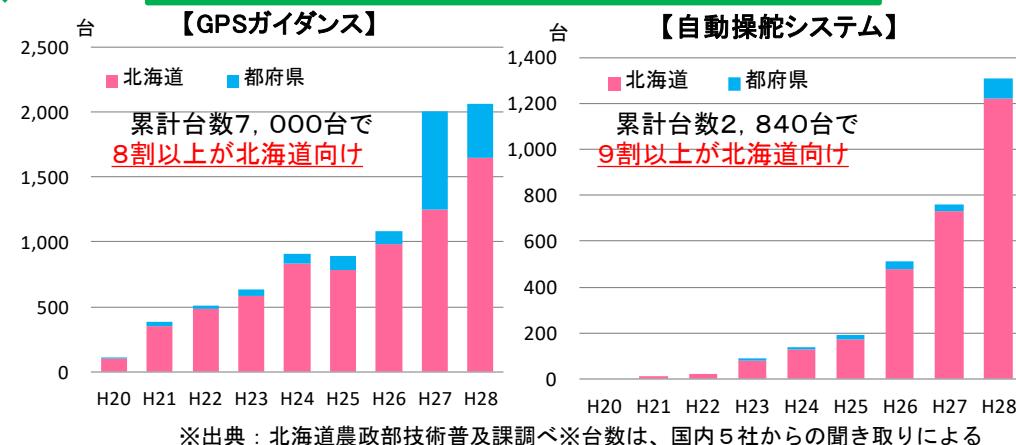


田植え作業の状況→
(自動操舵システム活用)

GPSガイダンスシステムを利用した実証試験結果(H24妹背牛地区)



GPSガイダンス等の出荷台数



参考)さらなる省力化に向けて

水田の水管理をICTで遠隔操作・自動制御(上士別地区)



水管理システム

- 水温・水位等のセンサー、気象データ等と作物の発育モデルを組み合わせた、自動で適切な水管理を行うシステムを目指す。
- 上士別IT研究会は、ホクレン、農研機構の協力のもと、H29年度から実証試験を実施中。

ロボット技術



ロボットコンバイン

- 大区画化に整備されたほ場で、さらなる省力化導入に向け、「**ロボットコンバイン**」の実証試験を実施中。(上士別地区をフィールドに平成25年~26年まで実証試験:右写真)
- 「ロボット新戦略」※では**自動走行トラクターの現場実装をH32年度までに実現することを掲げている。**

※H27.2日本経済再生本部決定

農水産物輸出促進に向けた屋根付岸壁等の整備事業

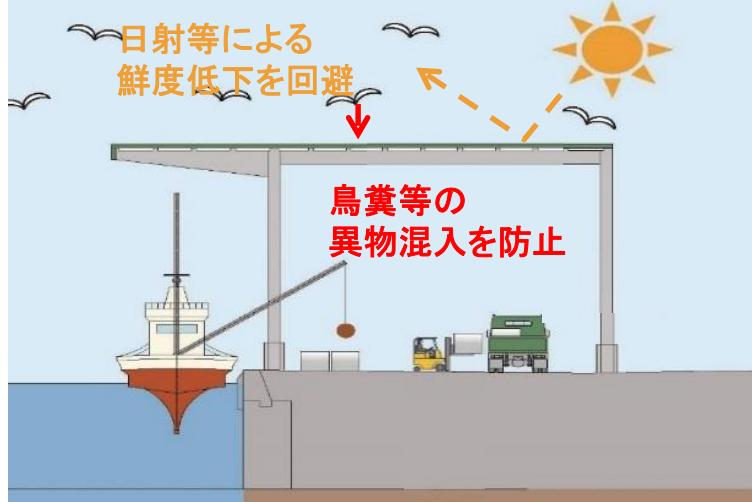


- 北海道の農水産品・食品の輸出額は年々増加しており、平成28年は702億円(5年間で2倍)に拡大。
- 新たな輸出成長分野として見込まれる農水産物の輸出増加に対応するため、国土交通省は輸出に戦略的に取り組む港湾において、農水産物の輸出促進に資する施設の整備を支援し、輸出促進を図る制度を創設。
- 平成29年5月、苫小牧港を含む道内の6港湾管理者らが策定した農水産物輸出促進計画が、全国で初めて国土交通省から認定。海外への輸出促進を図るため、本年度から輸出拠点港湾においては小口積替円滑化支援施設等、連携水揚港湾においては屋根付き岸壁等の整備に着手。

農水産物輸出促進計画(北海道)の概要



【屋根付き岸壁の整備効果】



連携水揚港湾



例) 屋根付き岸壁の整備(直轄)

輸出販路
拡大

魚価 UP

ブランド力UP

農産品
(米・野菜等)

輸出拠点港湾



例) 小口積替円滑化支援施設整備(補助)

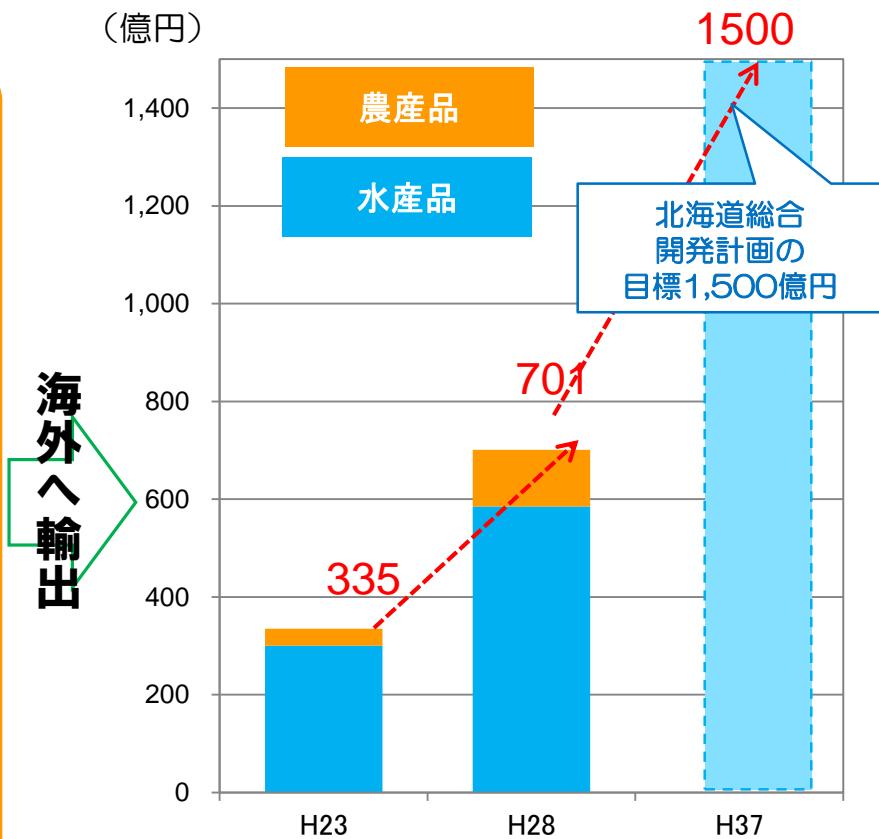


例) リーフアークンテナ電源供給装置整備(補助)

小口積替円滑化支援施設

リーファークンテナ電源供給装置

北海道からの農水産品輸出額 1500億円の達成を目指す



2019年の農林水産物・食品の輸出額 1兆円の政府目標達成に貢献

(出典) 財務省貿易統計、第8期北海道総合開発計画

アイヌ民族の伝統文化等の発信 民族共生象徴空間の整備

日本特有の先住民族アイヌ文化の世界への発信と新しい観光コンテンツの創造

「民族共生象徴空間」の概要



- アイヌ文化の復興等に関するナショナルセンターとして、国民各層の幅広い理解の促進の拠点並びに将来に向けてアイヌ文化の継承及び新たなアイヌ文化の創造発展につなげるための拠点となる「民族共生象徴空間」を北海道白老町、特に同町ポロト湖畔を中心とする地域に整備。
- 2020（平成32）年4月24日一般公開（同年に東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催）。

これまでの経緯

- 平成19年9月 国連総会において「先住民族の権利に関する国連宣言」採択（我が国も賛成）
- 平成20年6月 衆参両院において「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」採択（全会一致）
- 平成21年7月 内閣官房長官主宰「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」報告において「民族共生の象徴となる空間」の整備を提言
- 平成26年6月 「『民族共生の象徴となる空間』の整備及び管理運営に関する基本方針」閣議決定
- 平成29年6月 「『民族共生象徴空間』の整備及び管理運営に関する基本方針」の一部変更を閣議決定

「民族共生象徴空間」の整備及び管理運営に関する基本方針（ポイント）

平成26年6月13日 閣議決定
平成29年6月27日 一部変更

- 民族共生象徴空間は、アイヌ文化の復興に関する我が国における中核的な役割を担う。
- 中核区域となる北海道白老郡白老町ポロト湖周辺に国立アイヌ民族博物館及び国立民族共生公園を、同町字白老にアイヌ遺骨等の慰霊及び管理のための施設を、それぞれ整備する。
- 運営主体はアイヌ文化振興法第7条に基づく指定法人（（公財）アイヌ文化振興・研究推進機構）とする。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に先立ち、平成32年4月に一般公開し、年26間来場者100万人を目指す。

「民族共生象徴空間」整備の概要

○民族共生象徴空間の整備

アイヌ文化の復興等を促進するため、100万人の来場者実現に向け、国立民族共生公園及び慰霊施設の整備を推進。



国立アイヌ民族博物館〔文化庁〕

【整備の基本方針】

民族共生象徴空間の中核施設となる博物館として以下の方針にて整備

- ポロト湖畔の自然景観等，周辺環境との調和
- アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点
- 国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点

【施設概要】

延べ面積：約8,600㎡
規模：地上3階
構造：鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

【整備主体】北海道開発局（文部科学省（文化庁）からの支出委任により実施）

完成予想図

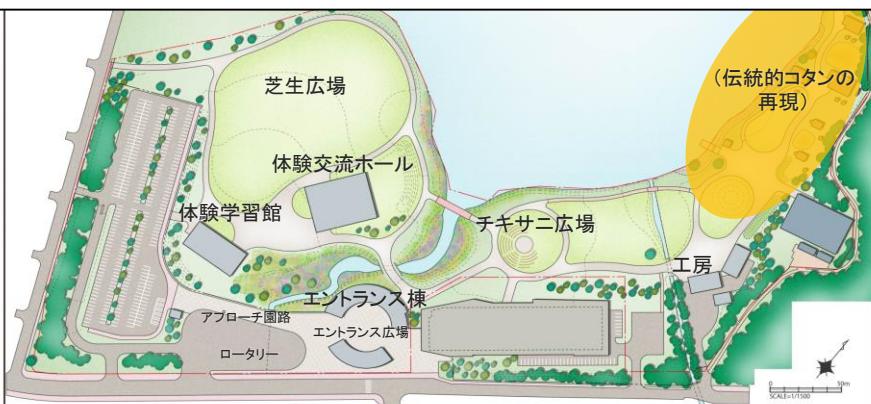


国立民族共生公園〔国土交通省〕

【施設配置計画】

- 伝統的コタンや広場、ポロト湖周辺の豊かな自然環境等を活かしながら、舞踊、工芸等を始めとするアイヌ文化の多様な要素を一般の人々が体験・交流する体験型のフィールドミュージアム
- 多様な来園者が快適に過ごせる魅力ある空間を形成するために必要となる施設を、空間構成計画に基づいて配置。

【整備主体】北海道開発局



【国立の民族共生公園（仮称）基本計画[平成28年4月]に基づく施設配置計画】

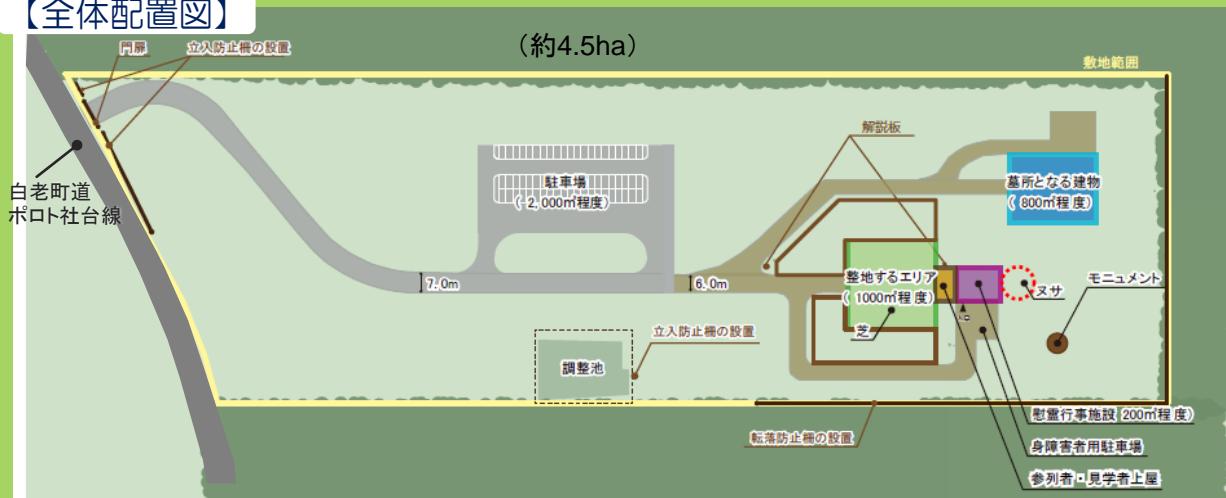
慰霊施設〔国土交通省〕

アイヌの人々による尊厳ある慰霊の実現に向けて、ポロト湖の東側の太平洋を望む高台に慰霊施設を整備。

【主要施設】墓所となる建物、慰霊行事施設、モニュメント、前庭(広場)等

【整備主体】北海道開発局

【全体配置図】

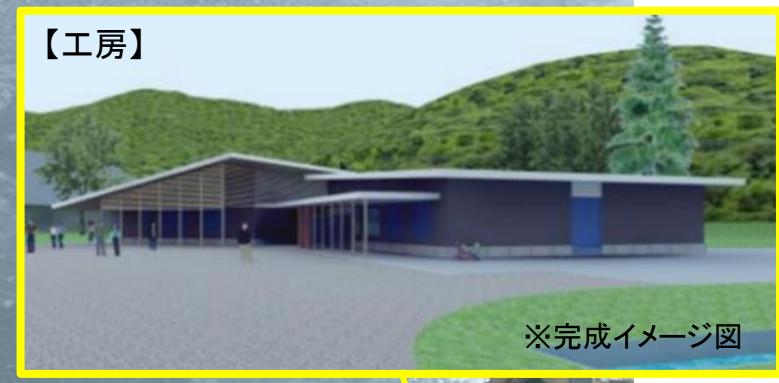


※イメージの部分があり、変更の可能性があります。

民族共生象徴空間(中核区域)の整備状況について

「世界の北海道」を目指して
—北海道総合開発計画—

- ・平成29年5月から国立民族共生公園の土地造成工事(プレロード)に着手。
- ・国立アイヌ民族博物館については、平成30年1月に工事着手。



平成30年1月11日撮影



「観光」を支える施策の推進

海外との出入り口 空港、港湾の対応

新しい観光需要への対応

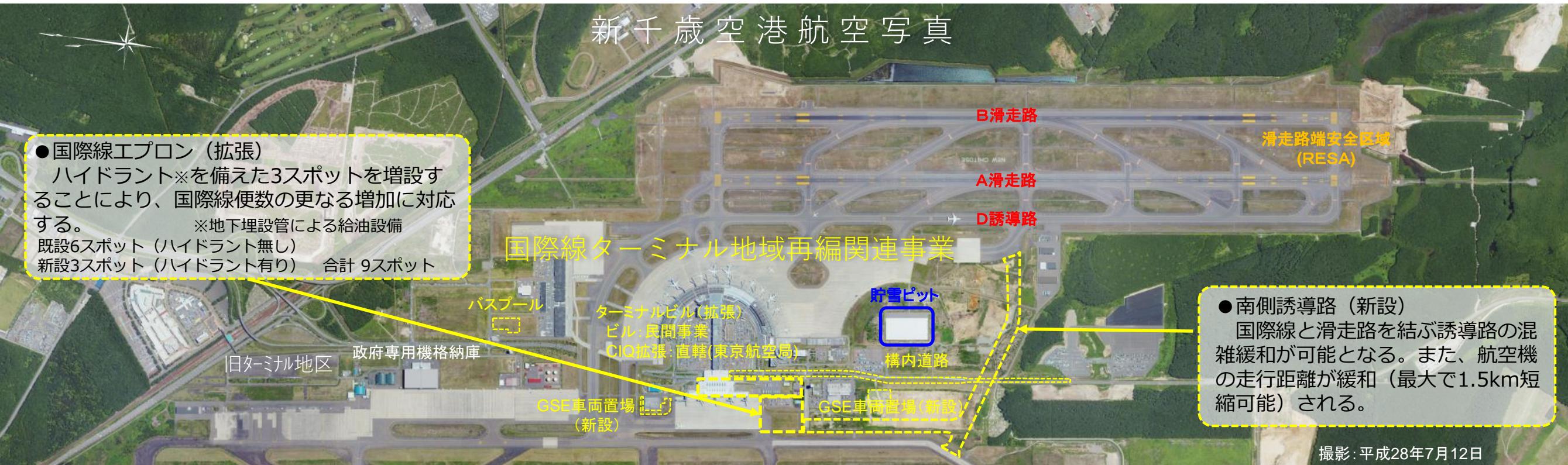
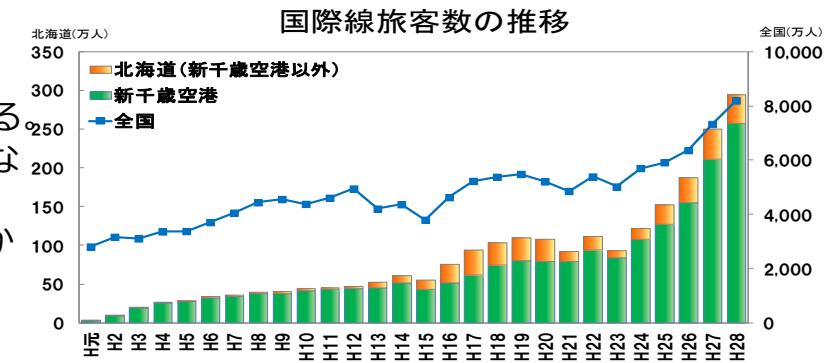
新千歳空港国際線ターミナル地域再編事業

事業概要

国際線旅客の急激な増加に伴う施設の混雑解消に対応するため、国際線エプロンの拡張、国際線旅客ターミナルC I Q施設の機能向上、南側誘導路新設による航空機導線の変更等、必要な整備を実施することで訪日外国人旅行者受入機能の強化を図る。

新千歳空港の国際線需要

近年、アジアを中心とする北海道の観光需要は急速に拡大している新千歳空港の国際線旅客数については、直近3カ年の伸び率が27%となり、過去最高を毎年更新している。
また、旧共産圏航空会社への運航制限緩和（平成28年10月30日から）や1時間当たり発着回数制限の緩和（32回→42回：平成29年3月26日から）が行われるなど、今後益々の需要拡大が見込まれる。



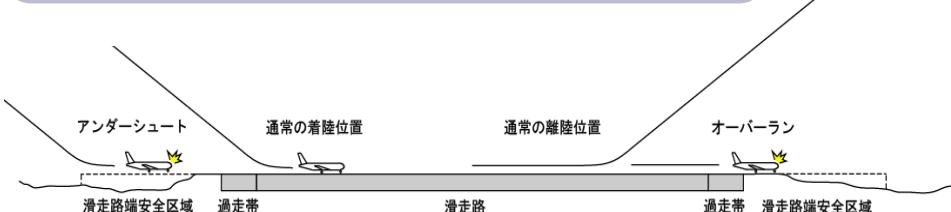
●国際線エプロン（拡張）
ハイドラント※を備えた3スポットを増設することにより、国際線便数の更なる増加に対応する。
※地下埋設管による給油設備
既設6スポット（ハイドラント無し）
新設3スポット（ハイドラント有り） 合計 9スポット

●南側誘導路（新設）
国際線と滑走路を結ぶ誘導路の混雑緩和が可能となる。また、航空機の走行距離が緩和（最大で1.5km短縮可能）される。

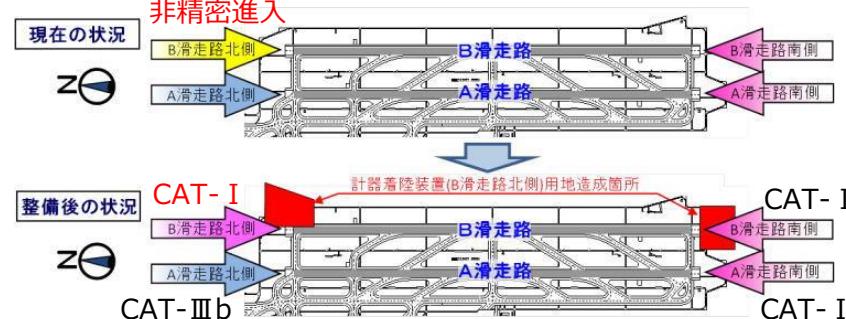
撮影：平成28年7月12日

その他事業

●滑走路端安全区域（RESA）
航空機が滑走路で停止できなかつたり、誤って手前に着陸してしまった際に、人命や航空機への損傷を最小限に食い止めるための平坦な用地を造成しています。



●B滑走路ILS双方向化（完成事業）



B滑走路北側進入用のILS（計器着陸装置）整備し、吹雪・海霧等視界不良時（南風時）の就航率をさらに向上させる。（H27d完成）

●貯雪ピット（完成事業）

クールプロジェクトの取組として、空港場内の排雪を貯蔵することにより雪冷熱を利用し、ターミナルビルの冷房として活用している。また、美々川の支流である美沢川に流入する雪解け水のBOD低下にも寄与する。

施設規模	100m × 200m
最大貯雪量	240,000m ³
実績（最大）	貯雪量：127,000m ³ 実績：27%熱量削減



堆雪状況

クルーズ船受入環境整備(函館港・小樽港・稚内港の取組)

クルーズ船の寄港需要の増加や船舶の大型化に対応するため、既存岸壁を活用し、受入環境を改善。全国の訪日クルーズ旅客数を2020年に500万人とする政府目標の早期達成に寄与。

函館港

整備施設: 若松ふ頭 岸壁(水深10m) 延長360m
 対象船舶: ダイヤモンド・プリンセス(11万トン級)
 完成目標: 平成30年中頃 暫定(水深8m) 供用開始予定
 平成30年代前半完成予定

函館山山頂

整備完了後イメージ図 (ダイヤモンド・プリンセス)

若松埠頭(整備中)

港町埠頭

約1.5km 徒歩20分圏

JR函館駅

約6.5km (車で30分)

ベイエリア

稚内港

整備施設: 末広ふ頭 岸壁(水深10m) 延長360m
 対象船舶: ダイヤモンド・プリンセス(11万トン級)
 完成目標: 平成30年供用開始予定

整備完了後イメージ図 (ダイヤモンド・プリンセス)

JR稚内駅

末広埠頭(整備中)

稚内公園

副港市場

小樽港

整備施設: 第3号ふ頭 岸壁(水深10m) 延長361m
 対象船舶: ボイジャー・オブ・ザ・シーズ(13万トン級)
 完成目標: 平成30年代前半完成予定

整備完了後イメージ図 (ボイジャー・オブ・ザ・シーズ)

運河公園

第3号埠頭(整備中)

勝納埠頭

約500m

JR小樽駅

旧日本銀行

小樽運河

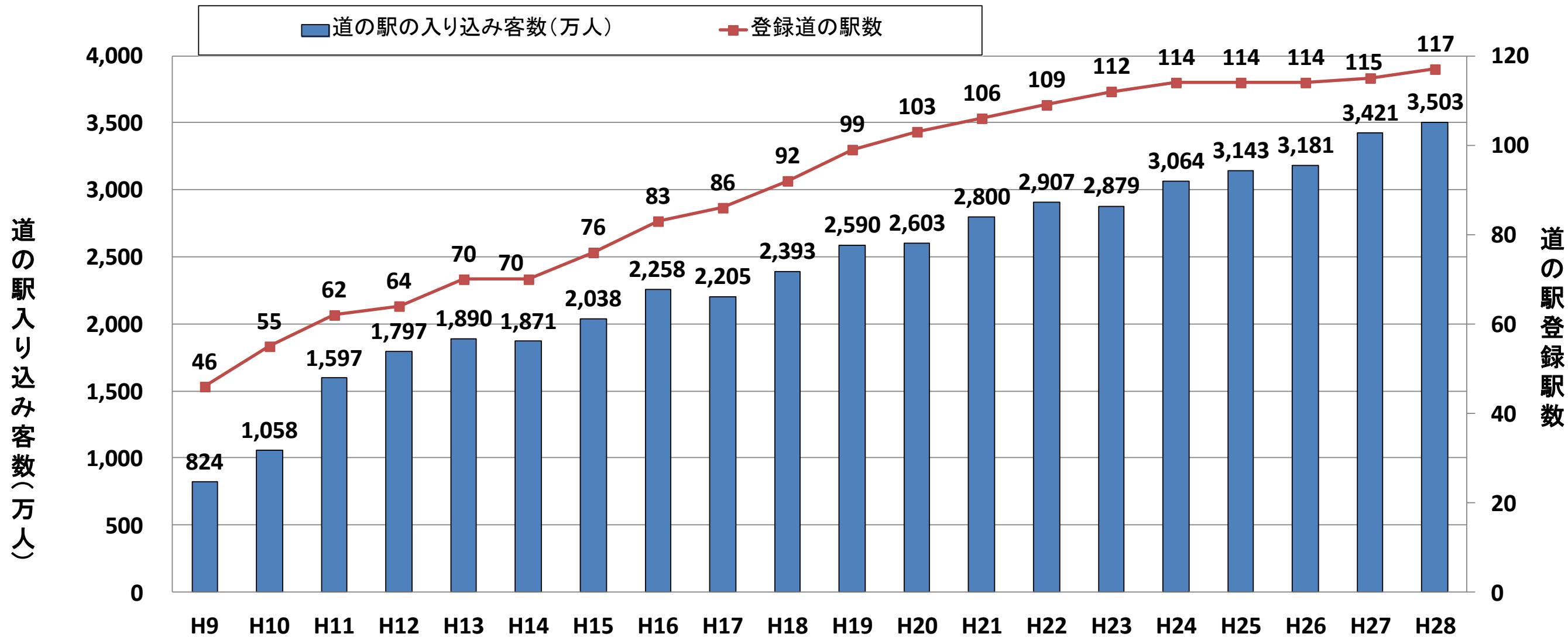
「観光」を支える施策の推進

「道の駅」の現状と今後の役割

外国人も良いけど、道民がもっと動かなければ……経済は回らない。

- 平成5年、三笠など14駅でスタートした道の駅は**現在117駅**と増加
- 道の駅利用者は年々増加
- 平成28年の利用者は、**北海道の人口の約6倍**となる**約3,500万人**が利用

道の駅利用者数、登録駅数の推移(平成28年迄)



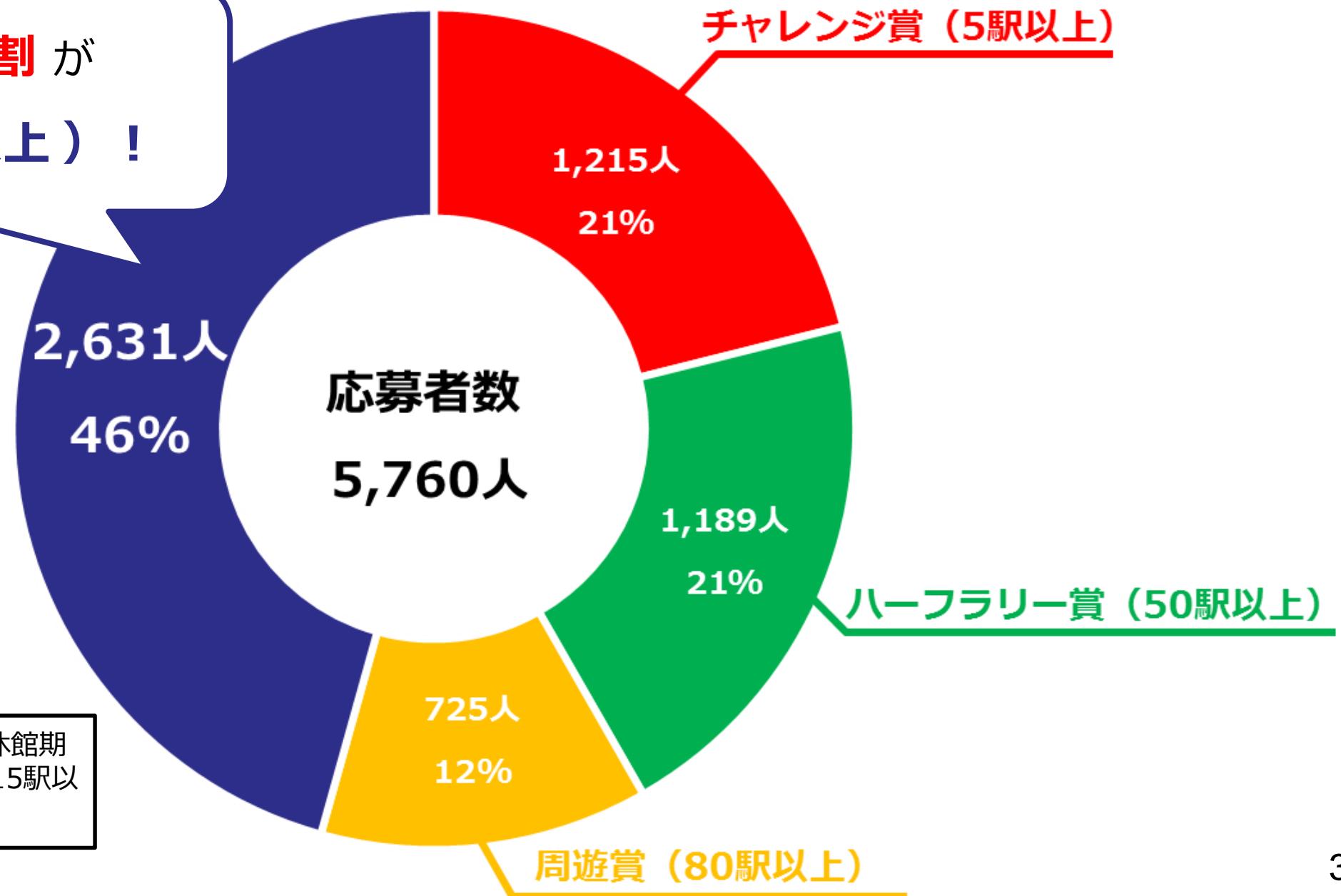
※北海道「道の駅」連絡会調べ(暦年)

45,000部発行
(参加者総数=40,715人
応募者数= 5,760人)



応募者の内、**約5割**が
完走賞※ (115駅以上) !

- チャレンジ賞 (5駅以上)
- ハーフラリー賞 (50駅以上)
- 周遊賞 (80駅以上)
- 完走賞 (115駅以上)



※登録済み「道の駅」は117駅だが、休館期間の重複を考慮して2016年度は115駅以上で全駅完全制覇とする。

・北海道内の旅行の目的は、ドライブを超え「道の駅」めぐりが1位！

道内観光客

■平成28年度

1	道の駅めぐり	31.6%
2	温泉・保養	30.9%
3	ドライブ	29.6%
4	特産品の買物・飲食	29.4%
5	自然鑑賞	27.9%
6	都市観光	23.9%
7	ショッピング	9.0%
8	キャンプ・ハイキング	6.0%
9	イベント参加・見学	4.9%
10	動物園・水族館	4.0%

■平成23年度（参考）

1	自然鑑賞	
2	温泉・保養	
3	都市見物・観光名所めぐり	
4	特産品の買物・飲食	
5	道の駅めぐり	
6	ドライブ	
7	ショッピング	
8	イベント参加・見学	
9	花の名所めぐり	
10	テーマパーク・遊園地	

■平成19年度（参考）

1	観光地名所巡り	
2	温泉・保養	
3	自然とふれあう	
4	ドライブ	
5	特産品の買物・飲食	
6	花の名所巡り	
7	行祭事・イベント	
8	スポーツ・文化活動	
9	都市見物	
10	テーマパーク・遊園地	

図表 北海道旅行の目的
(上位10項目・複数回答)

道外観光客

1	都市観光	53.9%
2	自然鑑賞	45.7%
3	特産品の買物・飲食	35.4%
4	温泉・保養	32.7%
5	花の名所めぐり	14.4%
6	動物園・水族館	14.3%
7	ショッピング	13.7%
8	ドライブ	13.4%
9	道の駅めぐり	9.7%
10	テーマパーク・遊園地	3.7%

1	都市見物・観光名所めぐり	
2	自然鑑賞	
3	特産品の買物・飲食	
4	温泉・保養	
5	ショッピング	
6	動物園・水族館	
7	ドライブ	
8	道の駅めぐり	
9	イベント参加・見学	
10	花の名所めぐり	

1	都市見物・観光地名所めぐり	
2	自然鑑賞	
3	温泉・保養	
4	特産品の買物・飲食	
5	テーマパーク・遊園地	
6	イベントへの参加・見学	
7	花の名所めぐり	
8	ドライブ	
9	スキー・スノーボード	
10	美術館など文化施設めぐり	

外国人観光客

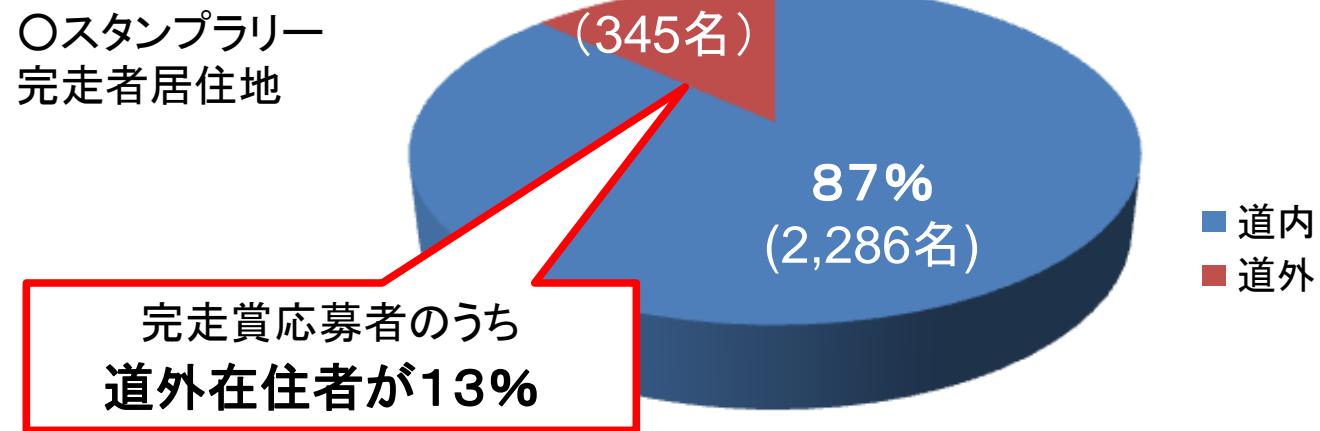
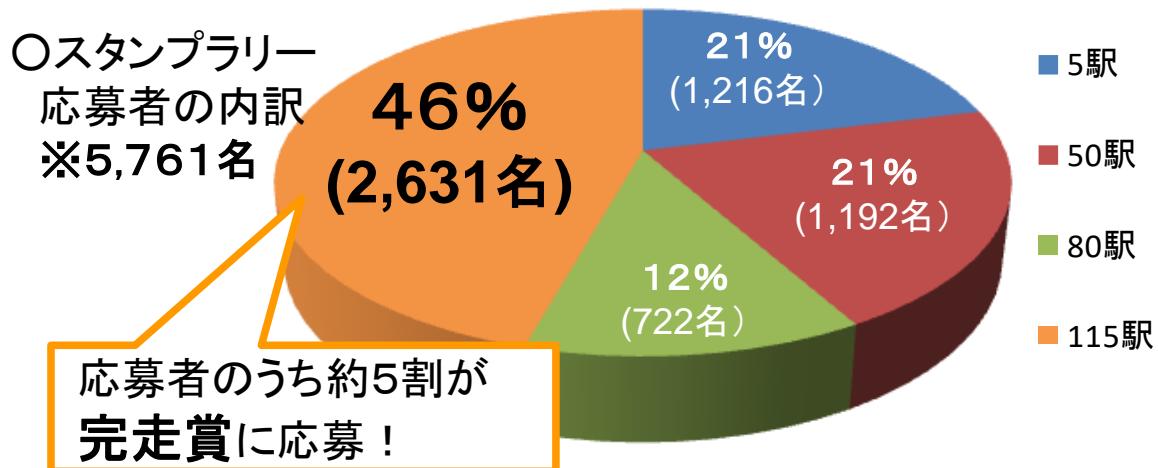
1	自然鑑賞	79.4%
2	都市観光	62.3%
3	温泉・保養	53.4%
4	特産品の買物・飲食	49.4%
5	ショッピング	40.1%
6	花の名所めぐり	26.0%
7	動物園・水族館	13.9%
8	道の駅めぐり	7.1%
9	スキー・スノーボード	6.7%
10	産業遺産・工場見学などの産業観光	4.6%

1	都市見物・観光名所めぐり	
2	温泉・保養	
3	自然鑑賞	
4	ショッピング	
5	特産品の買物・飲食	
6	花の名所めぐり	
7	動物園・水族館	
8	スキー・スノーボード	
8	イベント参加・見学	
10	道の駅めぐり	

1	自然鑑賞	
2	温泉・保養	
3	買い物	
4	都市見物・観光名所めぐり	
5	名物の飲食	
6	花の名所めぐり	
7	冬のイベント(雪や氷)	
8	スキー・スノーボード	
10	テーマパーク・遊園地	
10	夏のイベント	

観光客動態・満足度調査報告書
平成29年3月
北海道経済部観光局
(株式会社道銀地域総合研究所)

▼「道の駅」スタンプラリー2016 (参加総数 40,715名)



▼スタンプラリー完走者が選ぶ「道の駅」ランキング2016 (北海道開発局)

※スタンプラリー応募用紙のアンケートから、スタンプラリー完走者の回答を抽出してランキング化 (完走者意見⇒客観性高い)

トイレがきれいだと感じた駅 TOP10

- 1 フォーレスト276大滝・・・291票
- 2 サーモンパーク千歳・・・240票
- 3 みそぎの郷きこない・・・153票
- 4 縄文ロマン南かやべ・・・142票
- 5 わっかない・・・74票
- 6 おびら鯨番屋・・・67票
- 7 あかいがわ・・・49票
- 8 摩周温泉・・・44票
- 9 パパスランドさつつる・・・42票
- 10 花ロードえにわ・・・40票

有効回答数=1,561件

ゆっくり休憩ができたと感じた駅 TOP10

- 1 厚岸グルメパーク・・・167票
- 2 くらまつない・・・135票
- 3 摩周温泉・・・119票
- 4 おんねゆ温泉・・・62票
- 5 パパスランドさつつる・・・61票
- 6 サーモンパーク千歳・・・52票
- 7 うとろ・シリエトク・・・52票
- 8 スワン44ねむろ・・・43票
- 9 しかべ間歇泉公園・・・41票
- 10 花ロードえにわ・・・35票

有効回答数=1,511件

道路や天気の情報提供が充実していたと感じた駅 TOP10

- 1 うとろ・シリエトク・・・277票
- 2 樹海ロード日高・・・244票
- 3 おんねゆ温泉・・・90票
- 4 望羊中山・・・77票
- 5 そうべつ情報館(アイ)・・・71票
- 5 知床・らうす・・・64票
- 7 摩周温泉・・・42票
- 8 わっかない・・・34票
- 9 しゃり・・・19票
- 10 サーモンパーク千歳・・・12票

有効回答数=1,159件

地域や観光の情報提供が充実していたと感じた駅 TOP10

- 1 うとろ・シリエトク・・・329票
- 2 みそぎの郷きこない・・・85票
- 3 ニセコビュープラザ・・・84票
- 4 摩周温泉・・・75票
- 5 あさひかわ・・・74票
- 6 流氷街道網走・・・65票
- 7 知床・らうす・・・59票
- 8 そうべつ情報館(アイ)・・・49票
- 9 わっかない・・・48票
- 10 だて歴史の杜・・・36票

有効回答数=1,292件

景色がきれいだと感じた駅 TOP10

- 1 ぐるっとパノラマ美幌峠・・・648票
- 2 厚岸グルメパーク・・・108票
- 3 上ノ国もんじゅ・・・91票
- 4 みたら室蘭・・・73票
- 5 北前船 松前・・・64票
- 6 スワン44ねむろ・・・55票
- 7 望羊中山・・・51票
- 8 おびら鯨番屋・・・34票
- 9 おだいとう・・・29票
- 10 知床・らうす・・・27票

有効回答数=1,548件

完走者の声

フォーレスト276大滝について

- ・ホテルのトイレのようであり、広々として、清掃が行き届いていた
- ・ホールが広く、絵画の展示もある。グランドピアノも豪華



完走者の声

厚岸グルメパークについて

- ・ロビー休憩所がリラックス出来る
- ・買い物も食事も景色も充実している
- ・ベンチから厚岸湾が見え、ゆったりできた
- ・広くて色々な施設充実。何回も行きたい所でした



完走者の声

うとろ・シリエトクについて

- ・周辺の道路情報が充実していた
- ・大きな地図や細かい情報があった
- ・観光に必要な情報がしっかり書かれていた
- ・リアルタイムな天気分かりやすい



完走者の声

うとろ・シリエトクについて

- ・観光案内が一番充実していた
- ・いつも綺麗で分かりやすく、キャンプ場も丁寧に教えてくれた
- ・また知床に行きたいと思った



完走者の声

ぐるっとパノラマ美幌峠について

- ・この景色は格別です
- ・圧巻の景色。感動しました
- ・雲海が素敵でした
- ・360度の大展望



「道の駅」の「当たり前品質」が近年上昇！

○トイレと物販だけでは満足されない

○地域拠点型と観光拠点型に二分化

○北海道では冬期の対応と地元利用

地域資源活用とアイデア次第で経済効果！

「観光」を支える施策の推進

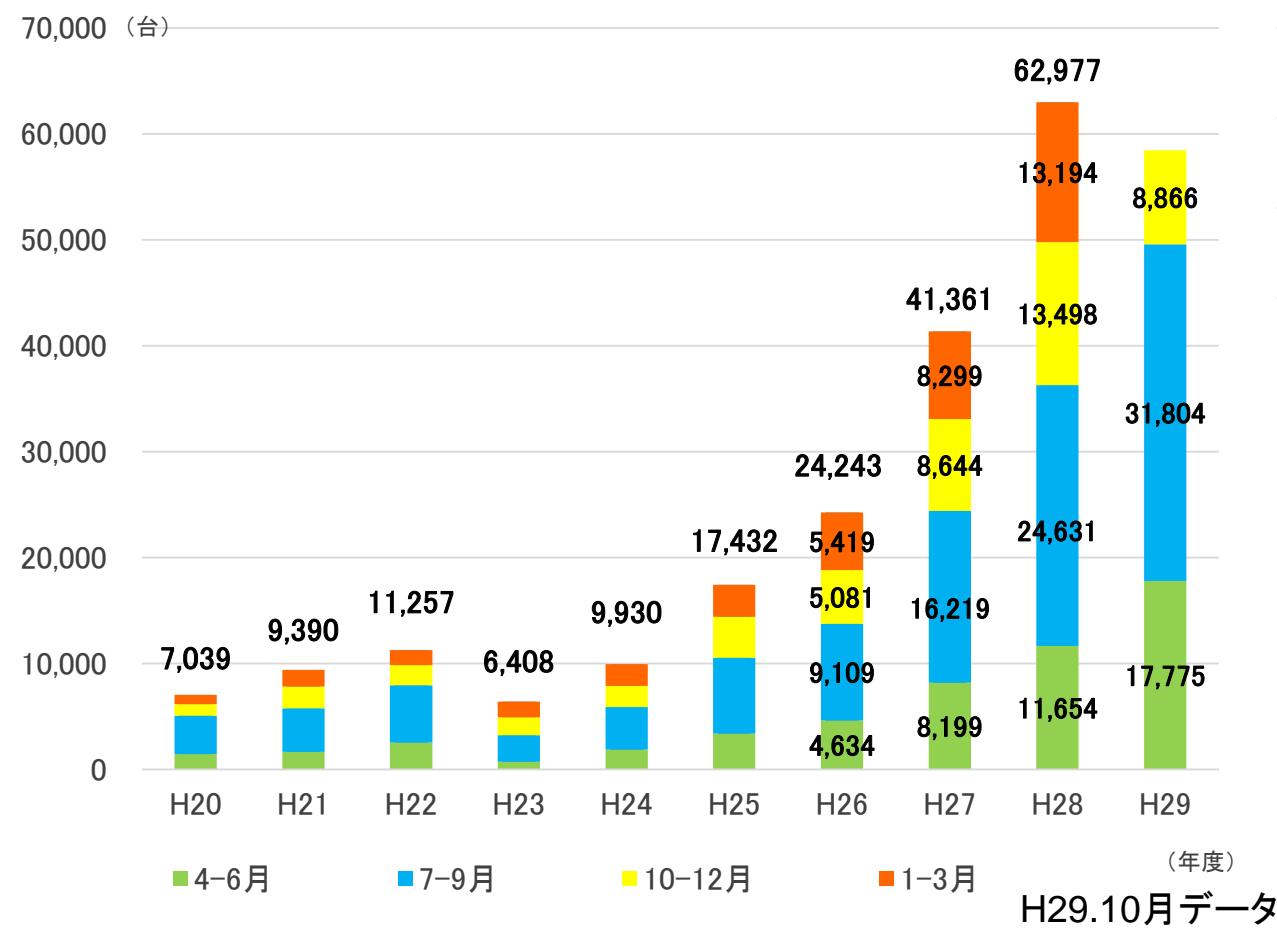
外国人ドライブ観光の推進

新しい観光需要への対応

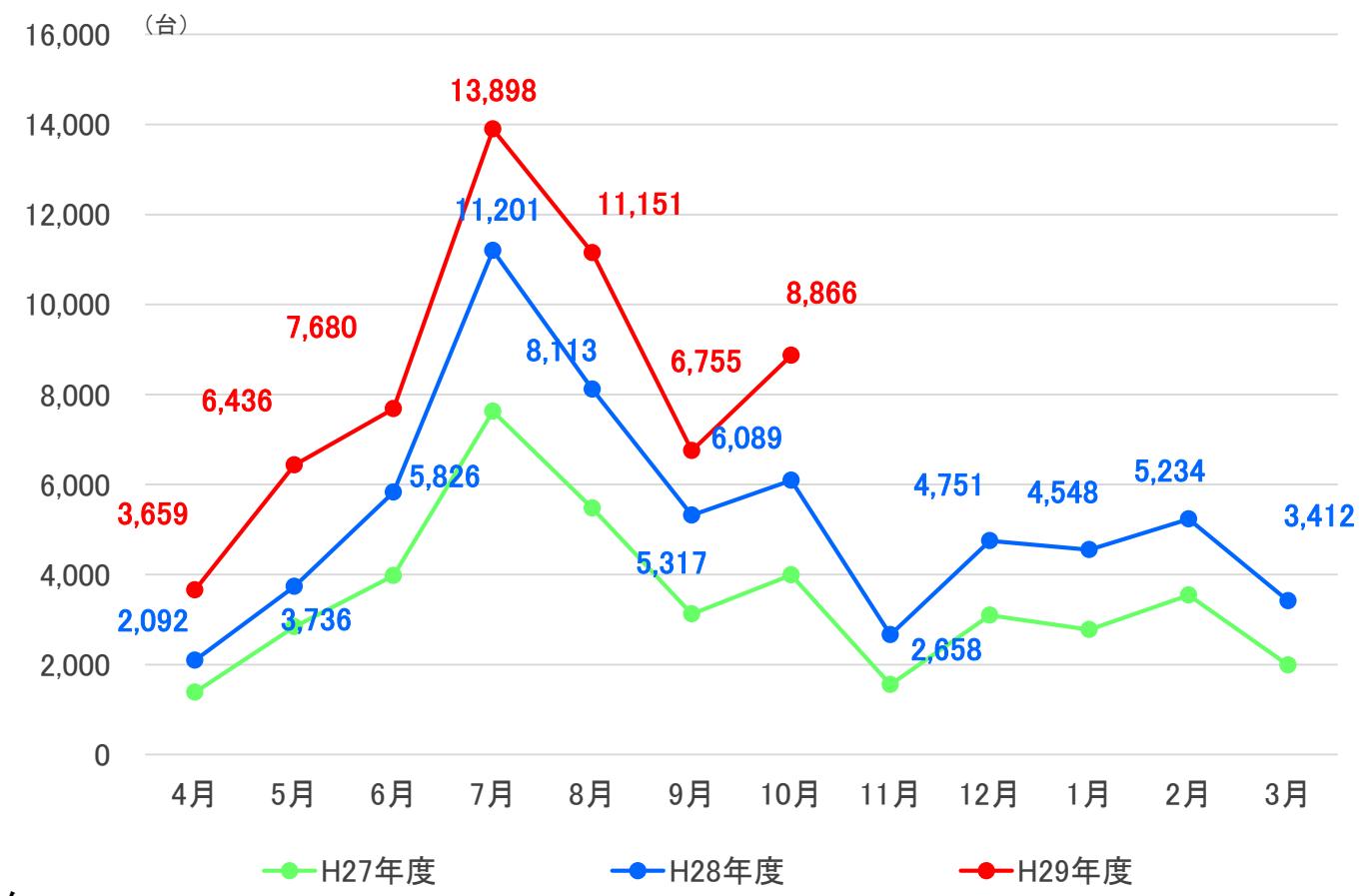
【北海道】外国人レンタカー貸渡台数の推移



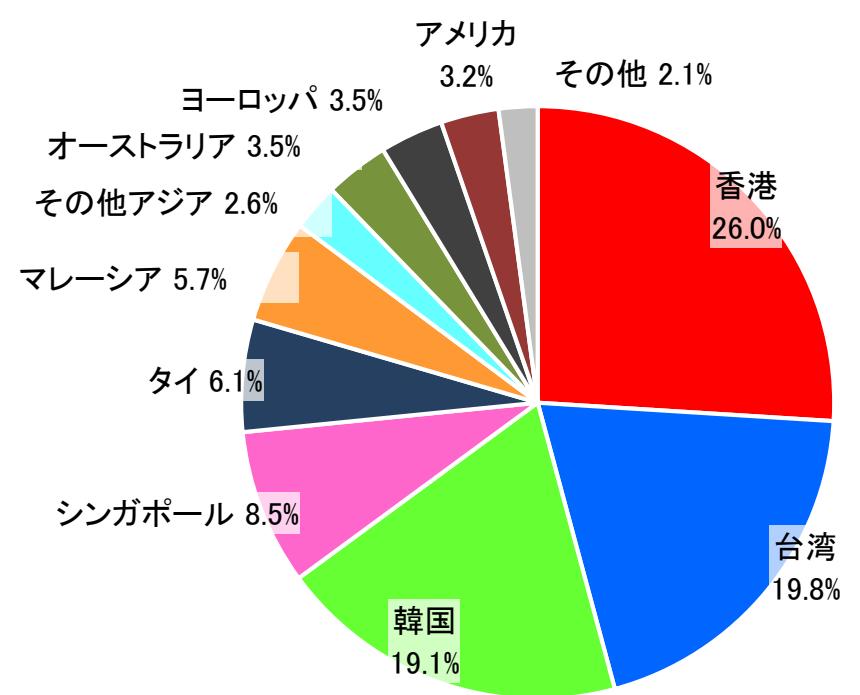
外国人レンタカー貸渡台数の推移



月別外国人レンタカー貸渡台数の推移



国籍別レンタカー貸渡台数 (平成28年度)



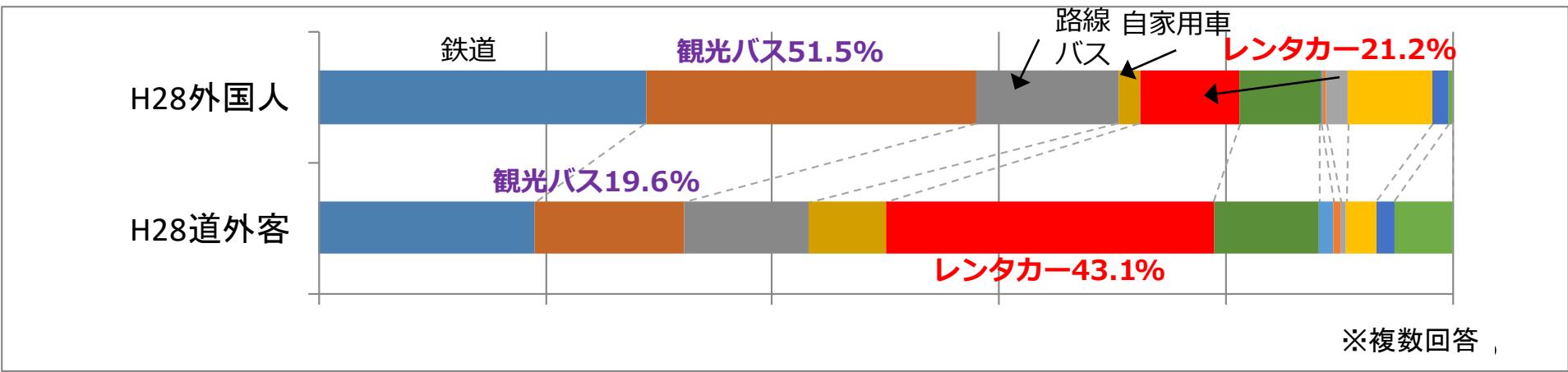
出典：北海道地区レンタカー協会連合会調べ



2016年度

訪日外国人来道者数 230万人 北海道の外国人へのレンタカー貸出数 6.3万台 (実数)

※1台あたりレンタカー乗車人数:3.9名(2016年北海道開発局調査結果)



出典：北海道観光局「平成28年度観光客動態・満足度調査」

外国人のニーズが道外客並みになるとすると
 (中国人以外：レンタ43.1%、観光バス19.6%)
 (中国人：レンタ0%、観光バス19.6%)

外国人のニーズに変化が無いとすると
 (中国人以外：レンタ21.2%、観光バス47.9%)
 (中国人：レンタ0%、観光バス61.5%)

2020年

訪日外国人来道者数 500万人の場合

レンタカー貸出数 42.1万台
観光バス利用者数 H28の84%

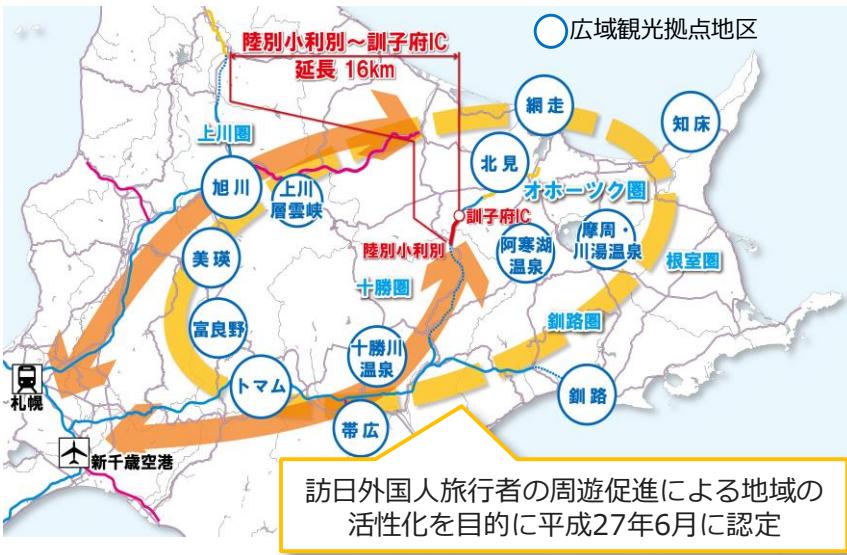
レンタカー貸出数 20.7万台
観光バス利用者数 H28の216%

北海道開発局が行うドライブ観光に資する取り組み

広域幹線道路網の整備

平成29年10月9日に、十勝オホーツク自動車道（陸別小利別～訓子府IC 延長16km）が開通。当該区間は、「広域観光周遊ルート」内にあり、観光拠点間を連絡する道路。

同区間の開通により、北見～帯広までの所要時間は、十勝オホーツク自動車道未整備時と比べ、夏期で8分、冬期で9分短縮。また、観光地への交通アクセスが改善されることにより、オホーツク圏の外国人宿泊客数の増加も期待。

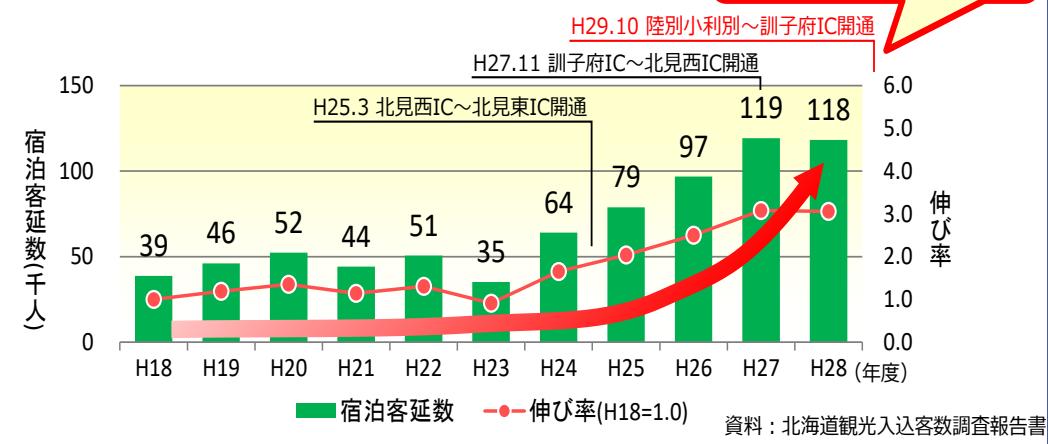


北見市～帯広市間の所要時間の変化

全線未整備	夏期	2時間34分	
	冬期	2時間43分	
訓子府IC～北見東IC 開通	夏期	2時間30分	4分短縮
	冬期	2時間39分	4分短縮
陸別小利別IC～訓子府IC 開通	夏期	2時間26分	8分短縮
	冬期	2時間34分	9分短縮
全線開通 (足寄IC～北見東IC)	夏期	2時間15分	19分短縮
	冬期	2時間20分	23分短縮

資料：平成27年度道路交通センサス

オホーツク圏の外国人宿泊客数の推移



外国人宿泊客数が
H18年の約3倍に増加

Wi-Fi環境の整備に係る取組

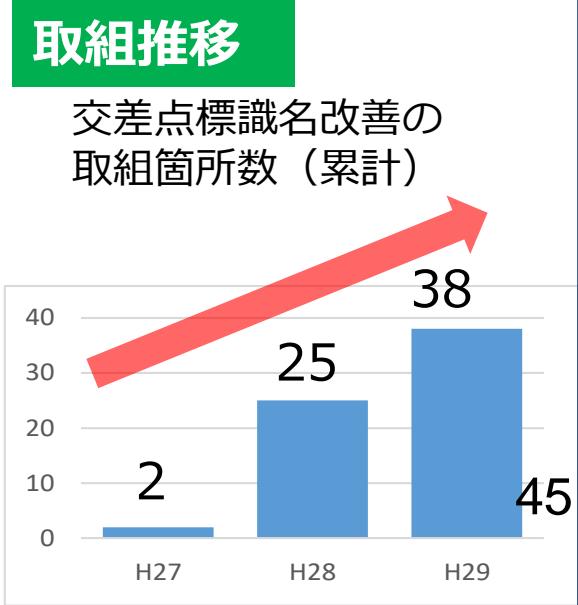
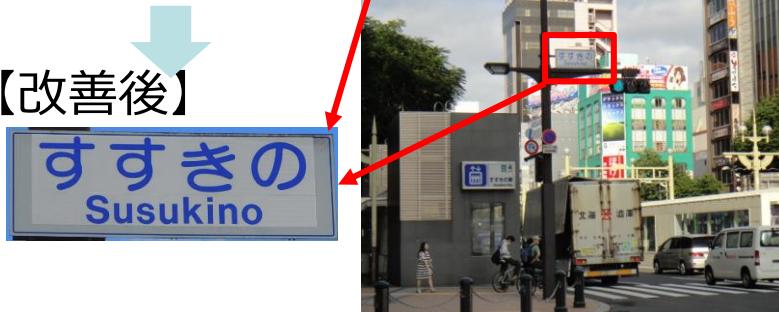
- ▷平成30年3月（予定）北海道内の開業済「道の駅」全道の駅SPOT（無料公衆無線LAN）の設置が完了。
- ▷道の駅SPOTのポータルサイト（接続画面）から、道路交通情報や防災情報および周辺の地域情報・観光情報等へアクセス可能。
- ▷ポータルサイトの英語版を整備。ポスター、ステッカー等で利用案内の充実を図る。

▼「道の駅SPOT」使う外国人旅行者 ▼「道の駅SPOT」英語版ポータル



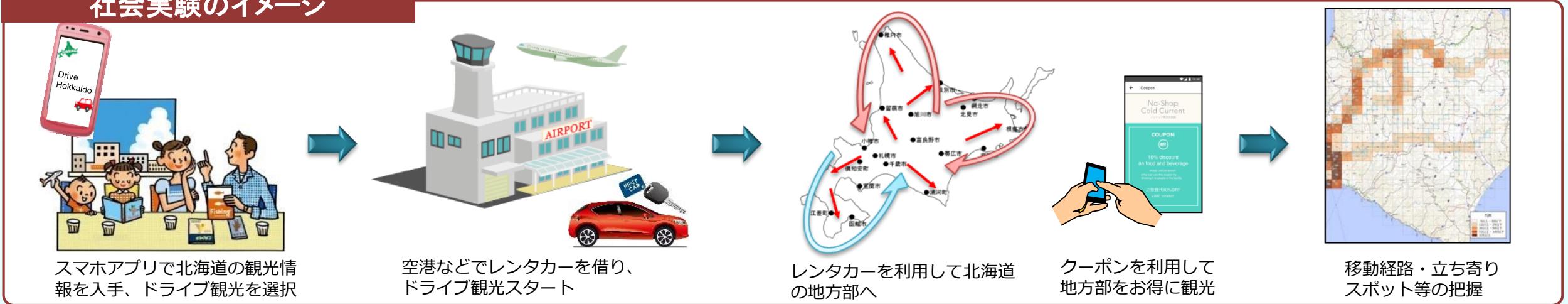
交差点名標識改善に係る取組

交差点名標識に観光地名称を表示し、観光客に向けて観光地へのわかりやすい案内を提供。
観光客より「案内標識が目に入り迷わず行けた」等の意見があった。



- 来道外国人旅行者は急増しているものの、道央圏への訪問地集中、旅行需要の季節変動が大きい等の課題が存在。
- 地域間・季節間の旅行需要の平準化を目的に、地方部の魅力的な観光資源や、割引等の特典を提供する施設の情報等を効果的に発信することで、外国人旅行者（主にドライブ観光客）を地方部へ誘導する社会実験を実施。
- 平成29年度の社会実験では、スマートフォン用アプリケーションを活用し、観光資源・特典施設の情報等を発信するとともに、外国人ドライブ観光客の移動経路や立ち寄りスポット等を分析。検証結果の活用により、今後の観光施策やプロモーション活動等を推進。

社会実験のイメージ



平成29年度社会実験の概要

実験期間：平成29年9月1日～11月30日（91日間）

対象地域：札幌市を除く北海道全域

対象者：主にレンタカーを利用する外国人観光客及び外国永住権を保有する日本人

観光情報：339資源

特典提供施設：249施設（札幌市を除く北海道全域から募集）

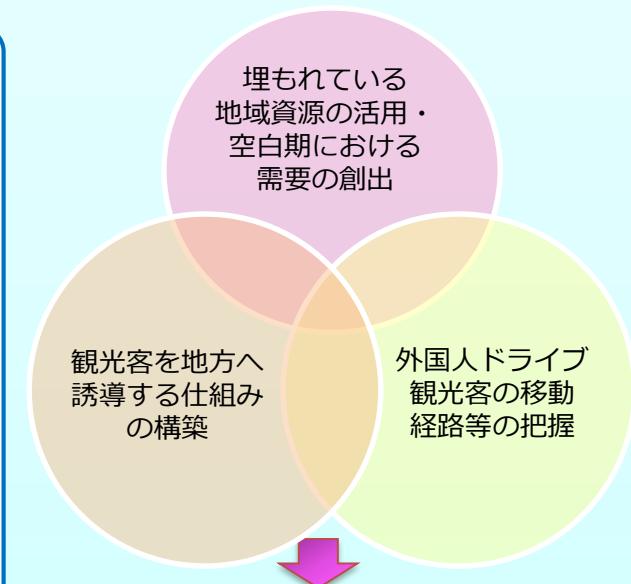
特典媒体：スマートフォン用アプリケーション「Drive Hokkaido!」
 ※社会実験協働実施者（パートナー）(株)ナビタイムジャパンの開発・提供

対象言語：英語/中国語（繁体字）

ホームページ：<https://hokkaido.japandrive.com>（日本語/英語/中国語（繁体字））

フェイスブック：<https://www.facebook.com/japandrivecom/>（英語）

インスタグラム：<https://www.instagram.com/japandrivecom/>（英語）



旅行需要の偏在緩和と新たな観光施策の推進

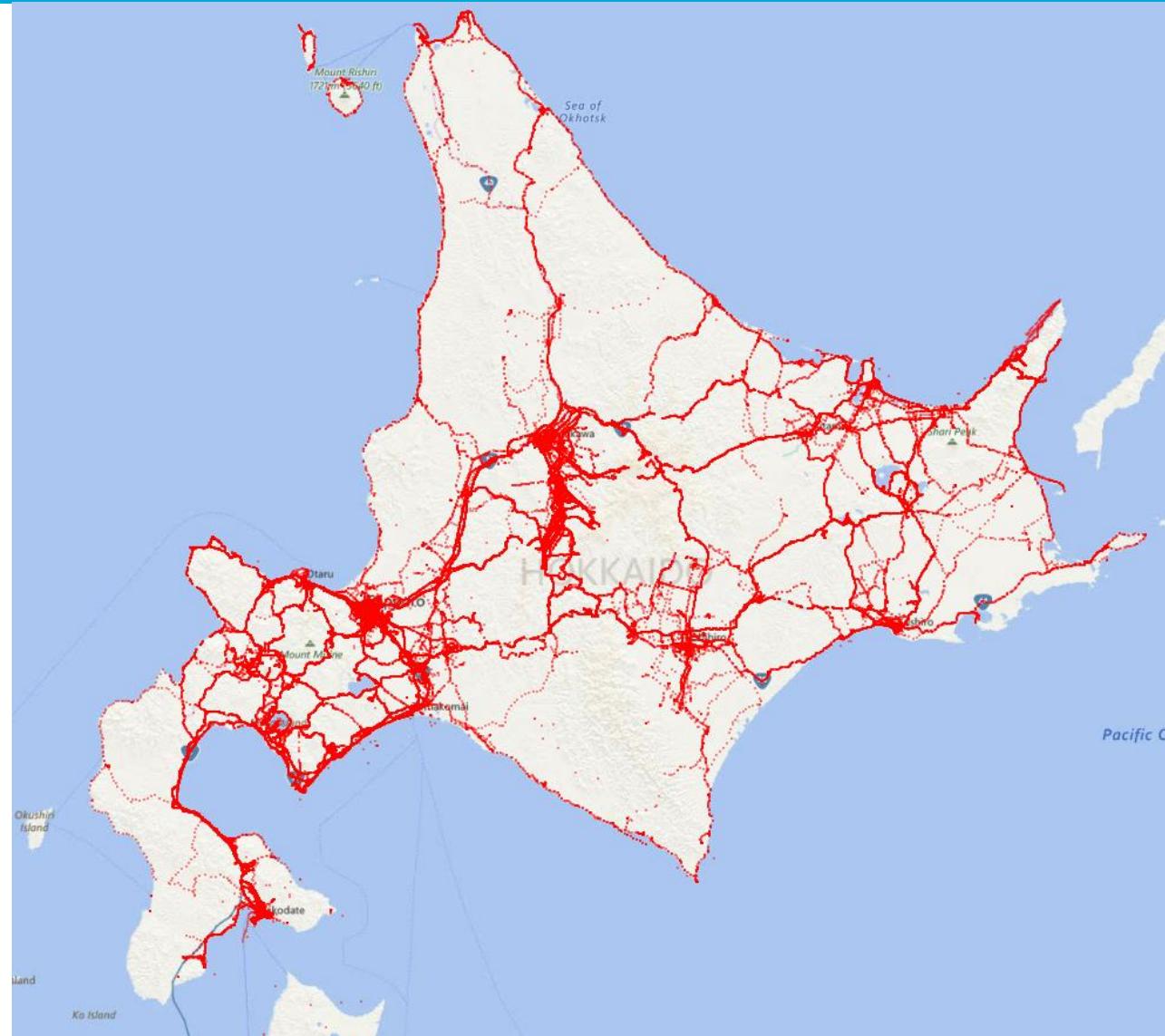
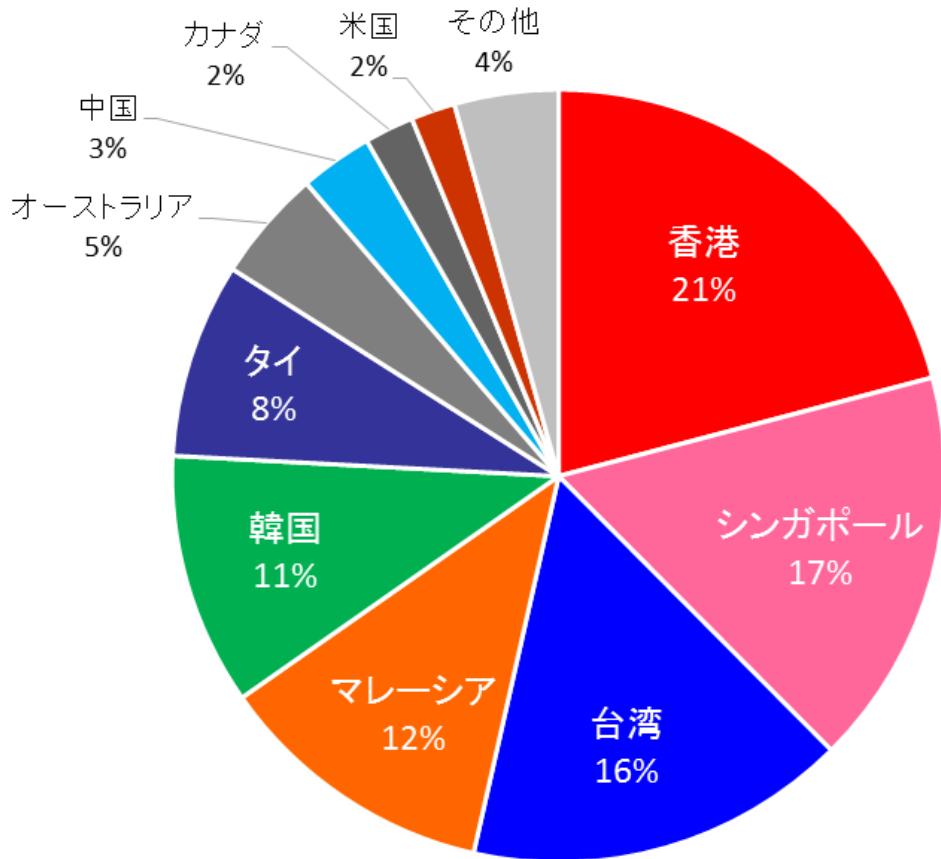
【速報】分析結果(9月1日～10月31日の2カ月間)

(1) アプリ「Drive Hokkaido!」による分析サンプル

● サンプル数

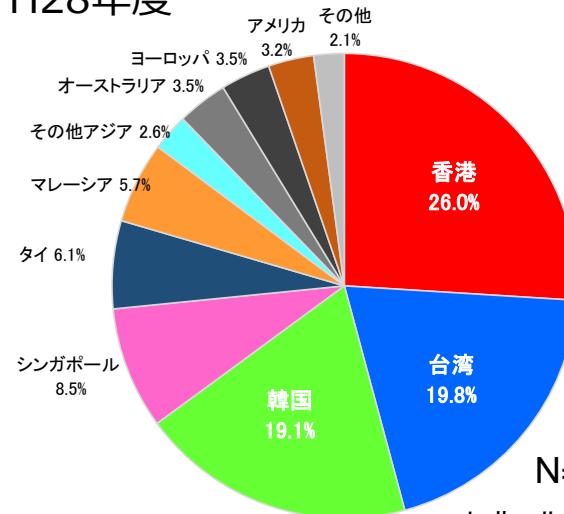
期間	2017年9月1日～10月31日 (2カ月間)
サンプル数	919ユーザー

● アプリユーザーの国籍・地域

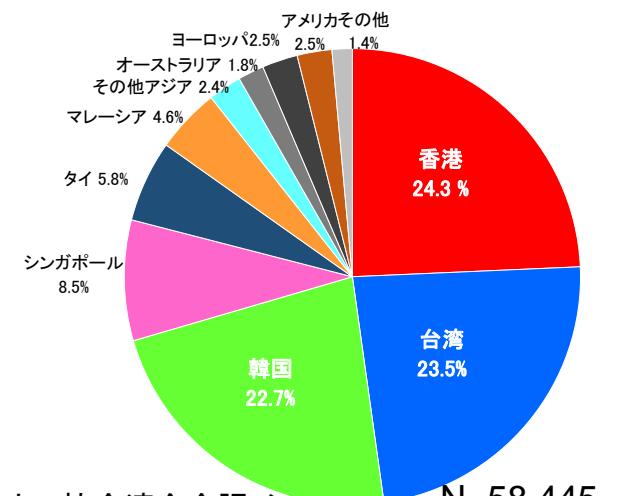


(参考) H28・H29年度 国・地域別レンタカー貸渡台数割合

H28年度



H29年度 (4～10月)



N=62,977

出典: 北海道地区レンタカー協会連合会調べ

N=58,445

■ 分析対象データ

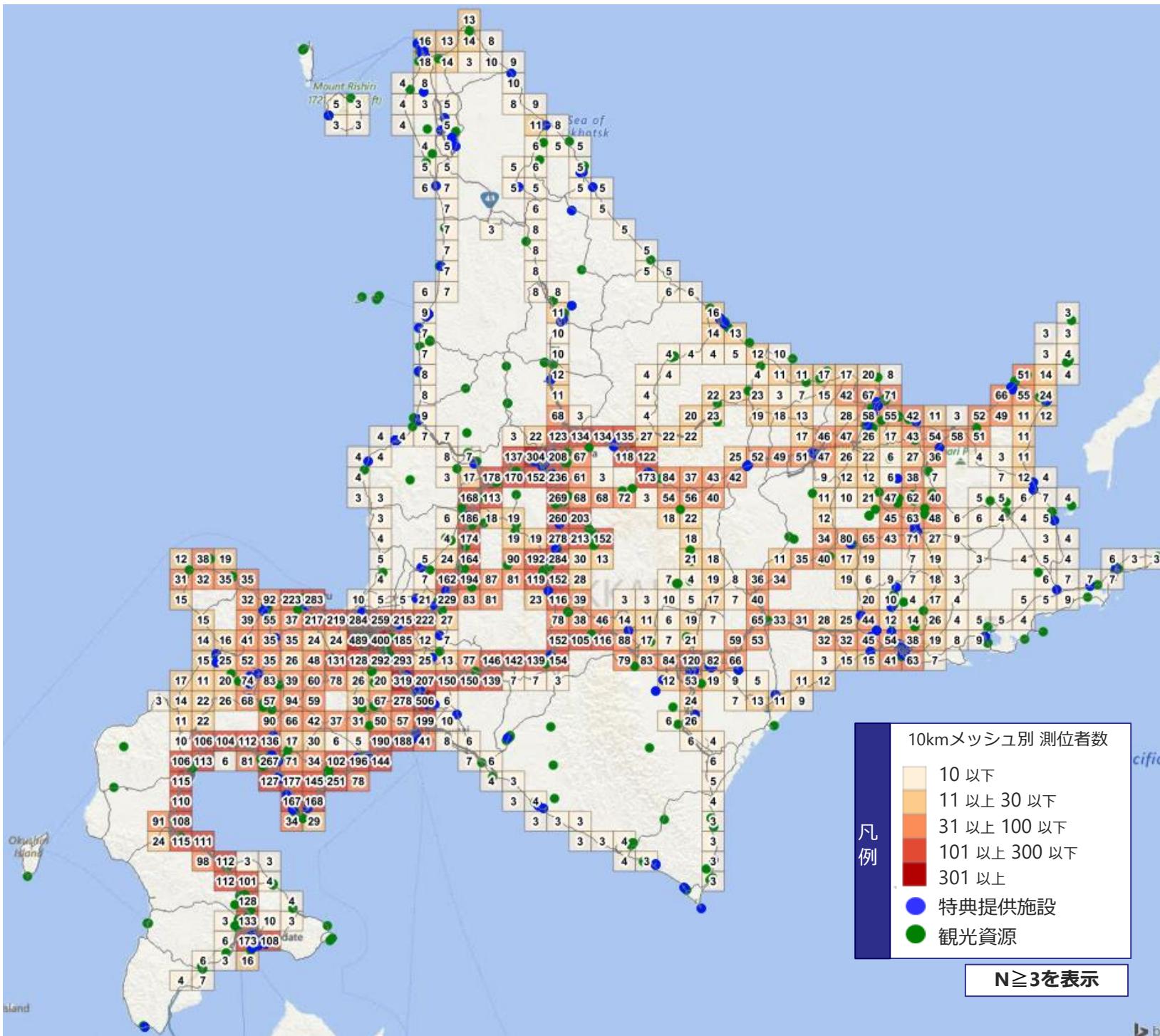
期間中に北海道を訪れ、アプリを利用（規約・プライバシーポリシーへ同意）したユーザーのデータを抽出。

ただし、以下のデータは除く。

- ・ 国籍を「日本」と回答したユーザーのデータ
- ・ 北海道での滞在期間が31日以上となるユーザーのデータ
- ・ 航空機利用と想定される「時速400km/h以上」のデータ

【速報】分析結果(9月1日～10月31日の2カ月間)

(2) GPSデータ測位者数(10kmメッシュ)



- ・ 檜山地域を除いて、全道的な周遊が見られる。
- ・ 特に多いのは
札幌・千歳～小樽、旭川、函館、トマム
旭川～美瑛・富良野、層雲峡
- ・ 道東地域（層雲峡や美瑛・富良野から東方面）への周遊はやや減少するものの、帯広、釧路市街、阿寒・摩周・屈斜路湖、網走、知床などを中心に周遊が見られる。
- ・ 旭川・紋別以北や日高地域の周遊は少ない。

■ 測位者数

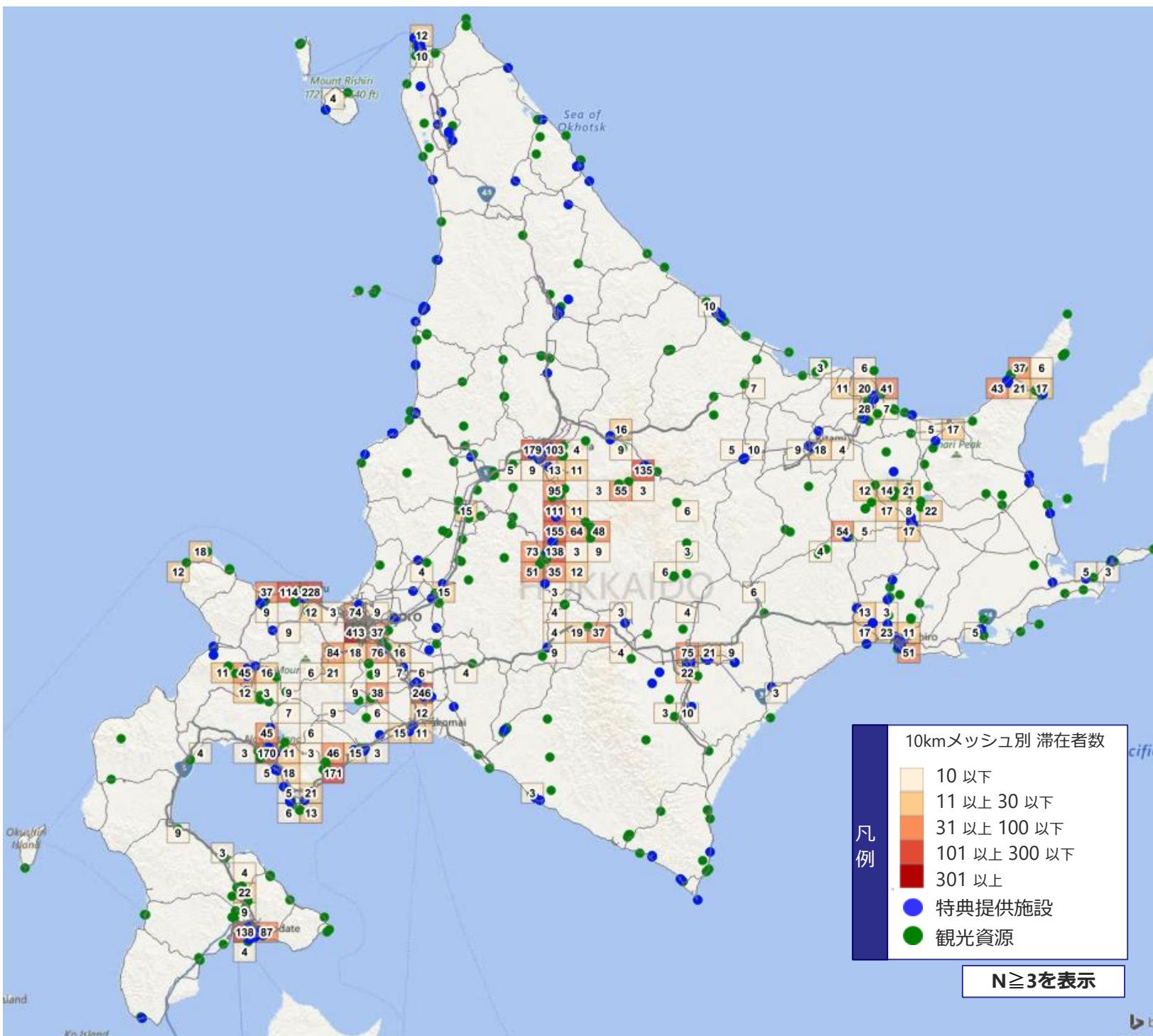
特定メッシュ内における、外国人旅行者のGPSデータ測位者数をカウント。メッシュ内の数字が人数を表している。

なお匿名化処理の関係により、サンプル数が3人以上のメッシュのみ表示。

データ期間：2017年9月1日～2017年10月31日（2ヶ月）
アンケート回答者のうち国籍が日本人の利用者は除外

【速報】分析結果(9月1日～10月31日の2カ月間)

(3) 滞在分析 (10kmメッシュ)



データ期間：2017年9月1日～2017年10月31日（2ヶ月）
アンケート回答者のうち国籍が日本人の利用者は除外

- 札幌や小樽、旭川、函館、帯広、釧路、網走などの主要都市のほか、登別、洞爺湖、美瑛・富良野、阿寒湖、知床などの観光地への滞在が多く見られる。
- GPS測位者データに比べ、滞在するエリアは限定的。
- 道東地域には、滞在スポットが点在。

◆ 滞在率（滞在者数/測位者数）の高い自治体（滞在者数 ≥ 10）

市町村名	測位者数	滞在者数	滞在率
1 小樽市	303	256	84.5%
2 稚内市	19	16	84.2%
3 帯広市	99	81	81.8%
4 函館市	186	151	81.2%
5 斜里郡斜里町	76	61	80.3%
6 札幌市	574	455	79.3%
7 釧路市	127	98	77.2%
8 積丹郡積丹町	39	28	71.8%
9 上川郡上川町	193	138	71.5%
10 網走市	88	61	69.3%

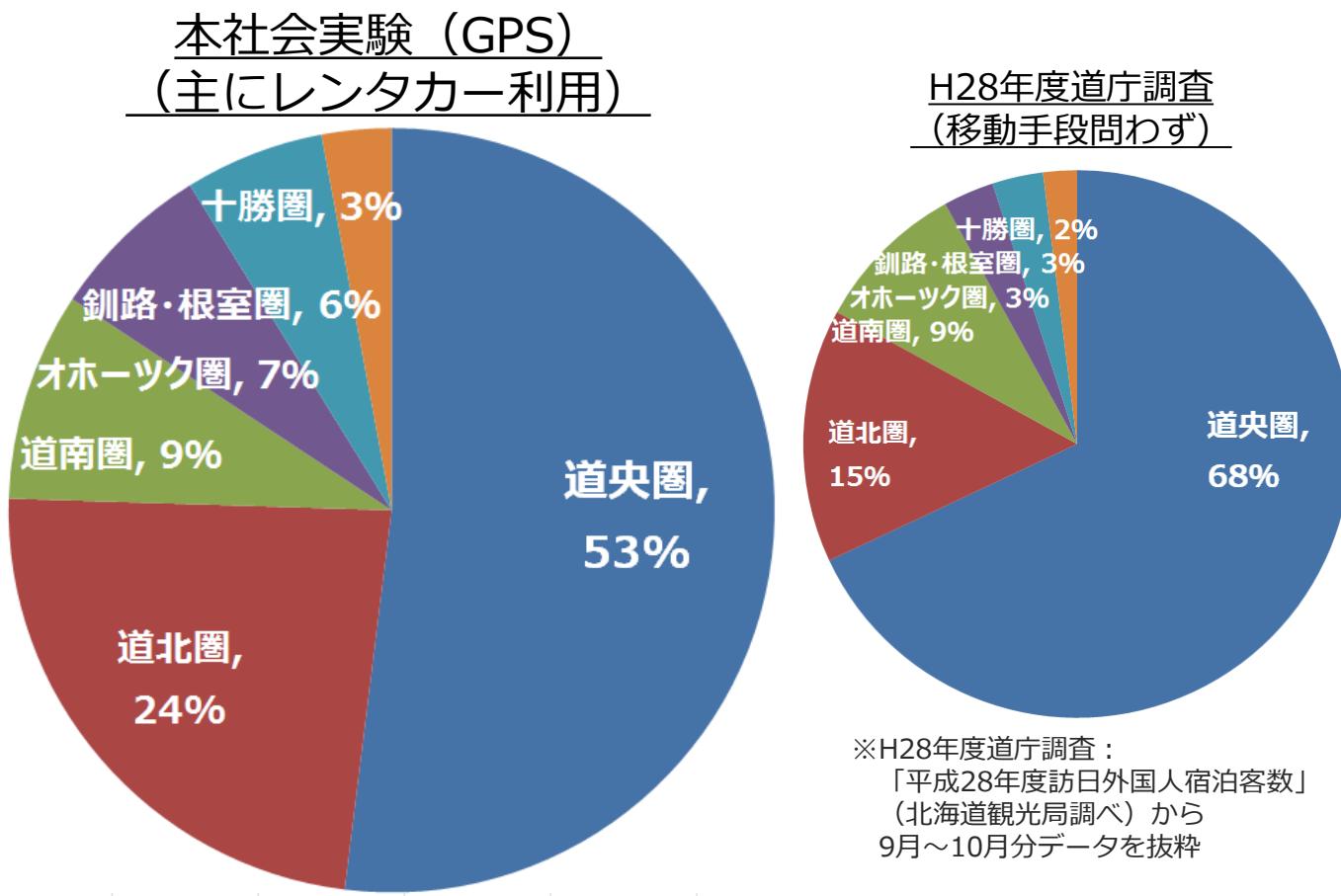
■ 滞在分析

同一の1kmメッシュ内に30分以上滞在した人を「滞在」と定義しカウント。メッシュ内の数字が人数を表している。

なお匿名化処理の関係により、サンプル数が3人以上のメッシュのみ表示。

【速報】分析結果(9月1日～10月31日の2カ月間)

(4) 宿泊地分析



- 外国人ドライブ観光客を主な対象とする本社会実験で得られた宿泊地データと、「平成28年度訪日外国人宿泊客数」(北海道庁調査、移動手段は問われない)の宿泊客延数を比較。
- 本社会実験の宿泊地データでは、道北エリアや道東エリアに宿泊する割合が高く、札幌市を含む道央エリアの割合が低くなっている。
- このことから、ドライブ観光客は、地方部への周遊傾向が強く見られるといえる。

振興局	本社会実験(GPS)		H28年度道庁調査	
	宿泊客延数	割合	宿泊客延数	割合
北海道全域	2,692	100%	816,724	100%
道央圏	1,417	53%	553,593	68%
空知地域	7	0%	5,299	1%
石狩地域 (札幌市除く)	82	3%	21,827	3%
札幌市	781	29%	327,948	40%
後志地域	274	10%	53,460	7%
胆振地域	265	10%	143,728	18%
日高地域	8	0%	1,331	0%
道北圏	638	24%	121,830	15%
上川地域	592	22%	117,673	14%
留萌地域	1	0%	93	0%
宗谷地域	45	2%	4,064	0%
道南圏	230	9%	76,014	9%
渡島地域	228	8%	75,913	9%
檜山地域	2	0%	101	0%
オホーツク圏	175	7%	22,509	3%
釧路・根室圏	153	6%	25,128	3%
釧路地域	136	5%	23,653	3%
根室地域	17	1%	1,475	0%
十勝圏	79	3%	17,650	2%

■ 宿泊地の判定
 21時～翌3時の間においてGPSが測位された最後の市町村を「宿泊地」と定義。
 なお、9/1～10/31の2ヶ月間において、宿泊地データを取得できた、2,692延べ日(722ユーザー)分について分析を実施。

レンタカー利用の外国人客をどう取り込むか

- 公共交通がない地域にも対応
- 個人型特有の小規模と自由度
- 貨物スペースの余裕

施設整備なくともアイデア次第で経済効果！

「観光」を支える施策の推進

北海道のサイクルツーリズム推進

- 「北海道総合開発計画(平成28年3月閣議決定)」では、北海道において、**アジアの中でも特徴的で魅力的な観光資源**を活かしながら「**世界水準の観光地**」を目指しており、**サイクルツーリズム等の振興**等により、広域的な観光周遊ルートの形成を促進するとともに、施策の推進にあたっては、産学官民連携による「プラットフォーム」を形成することとされている。
- 平成29年5月には「自転車活用推進法」が施行

■ 下記の具体的な体制や内容について、【モデルルート試行】により検討実施(H29~30)

各ルート(地域)の取り組み

受入環境の充実

- 道の駅や休憩施設、食事施設
- 宿泊施設
- 空港・駅等(交通結節点)でのサービス
- 地域資源の発掘と観光資源化



自転車走行環境の改善

- 案内看板・路面標示の設置
- 自転車走行空間の確保
ルートの設定や、河川空間を利用した走行空間の確保等



情報の提供、サイクルユーザーとのコミュニケーション

■ イベント等の企画・実施



■ ルート情報の集約

- <道路状況>
道路構造、交通状況、交通事故等
- <施設>
休憩・食事施設、ビューポイント等

連携

全道の取り組み

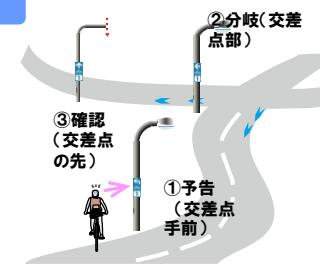
受入環境充実のための連携・調整

- 関係機関との連携・調整
(公共交通(空港/鉄道)、道の駅、河川、農業等)
- 民間企業等との連携
(運送業者、コンビニ等)



自転車走行環境のための基準統一

- 案内看板・路面標示・番号等の統一
- ルート診断(自転車の走りやすさ)
幅員や信号、トンネル等の道路構造や大型車交通量などに基づいて診断



情報の提供、サイクルユーザーとのコミュニケーション

■ コミュニケーションサイト



■ ロゴ統一・PR・実態調査等



更新情報

ユーザーの声

双方向のコミュニケーション

試行を開始したモデルルート

「世界の北海道」を目指して
—北海道総合開発計画—



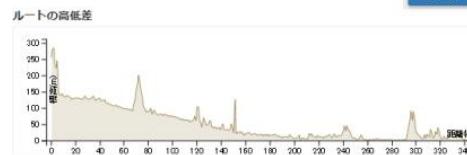
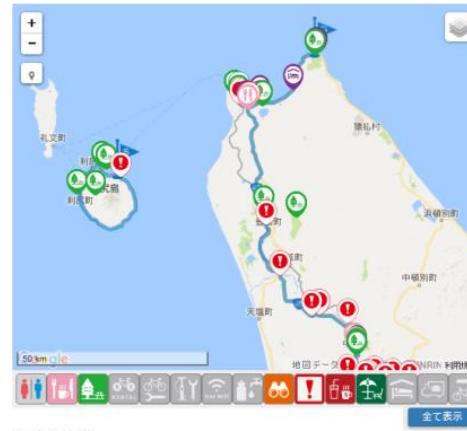
受入環境の充実



北海道の景観・食・自然などを満喫して頂けるよう、イベントや情報提供、立ち寄り施設へのサイクルラック等の設置を地域の方々と連携して実施

サイクリストのニーズや満足度を検証

情報提供・サイクリストとのコミュニケーションの方策



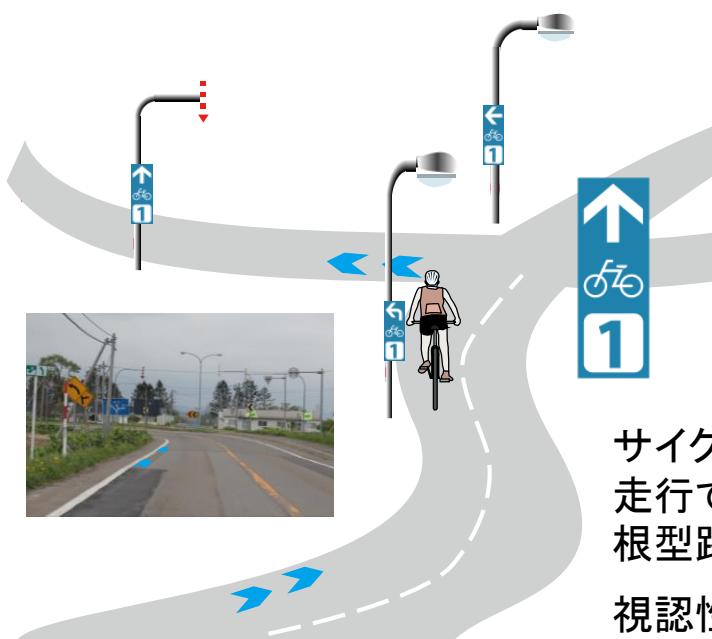
地図・高低差の表示/
現在位置の表示



スポット情報

モデルルートや地図や高低差、ビューポイントや休憩施設などのスポット情報を提供するとともに、サイクリストからの評価・意見を投稿いただけるコミュニケーションサイトを開設

自転車走行環境の改善



サイクリストが安全に、かつ迷わず走行できるように、案内看板や矢羽根型路面表示を設置

視認性やわかりやすさ等を検証

持続的取組を進めるための体制・役割分担



取組を支える活動団体へのヒアリングや、経済波及効果・サイクリング客数等の基礎的なデータ収集を実施し、体制や役割分担、取組効果評価方法等を検討

北海道の特徴を活かした新しい観光形態の創造

○諸外国に比べ適度な間隔で都市・観光拠点が存在

○治安の良さ ○小交通で安全

○沿道景観の良さ ○経済効果

など

案内、休憩・宿泊など地元受け入れ体制が不十分

「観光」を支える施策の推進

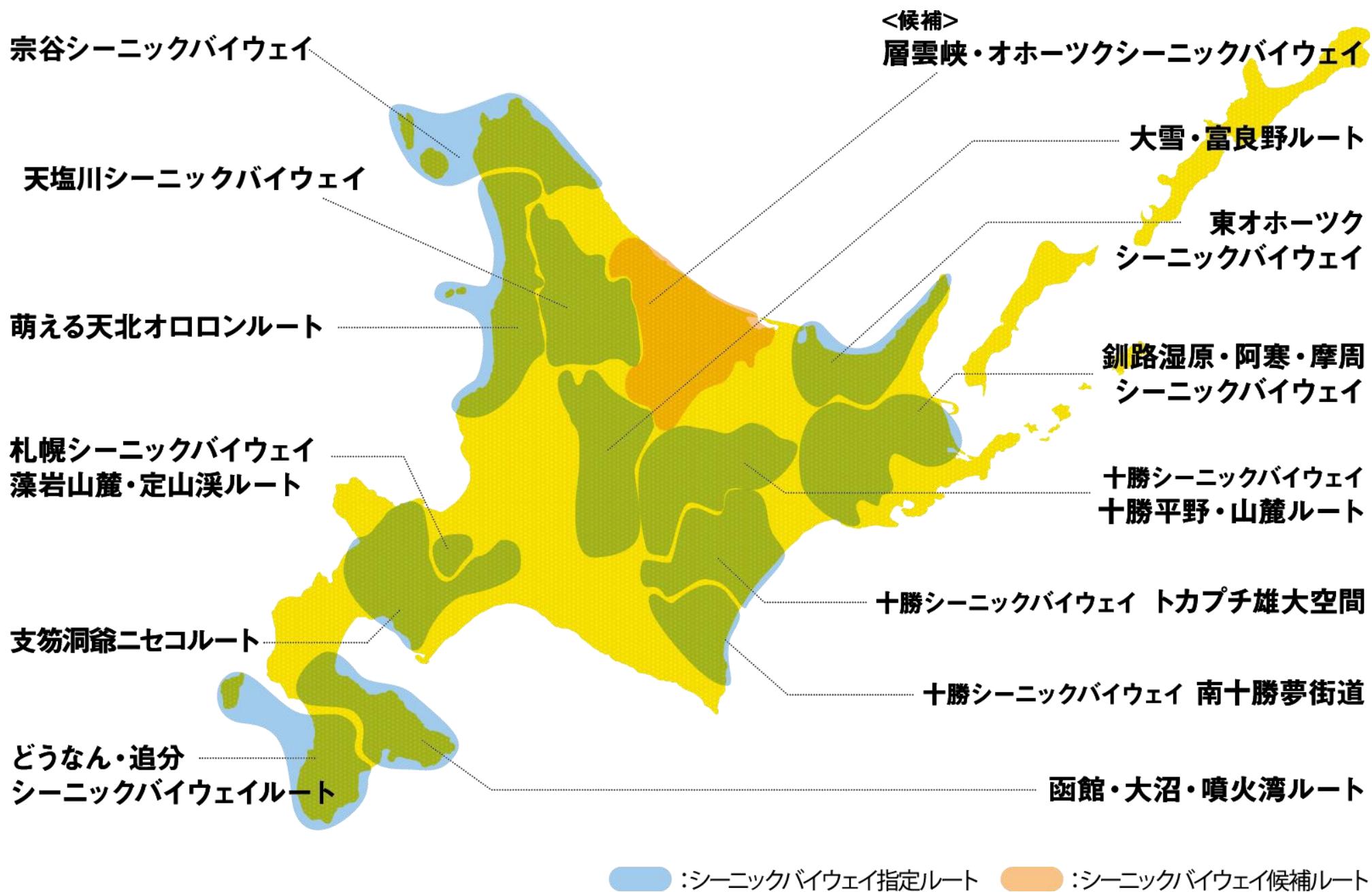
協働・連携事業1

シーニックバイウェイ北海道

シーニックバイウェイ北海道

「世界の北海道」を目指して
—北海道総合開発計画—

- シーニックバイウェイ北海道は、みちをきっかけに地域と行政が連携し「美しい町づくり」「魅力ある地域づくり」「魅力ある観光空間づくり」を目指す取組。
- 各ルートでは、道路の花植えや清掃、地域おすすめの絶景ポイントの整備や情報発信など、それぞれの地域ごとに特徴ある活動を展開。
- 平成17年度より開始し、現在、13の指定ルートと1つの候補ルートがあり、約400団体が活動している。



美しい景観づくり
活動団体や地域間の連携などにより沿道景観をより魅力的にする活動

活力ある地域づくり
地域資源を生かしたまちづくりの勉強会など、地域の誇りを育む活動

魅力ある観光空間づくり
旅行者の満足度向上を目指し、観光メニューの創出、イベントの実施、情報発信など

- シーニックバイウェイ北海道では、地域を訪れた方に美しい景観を安全・快適に楽しんでいただくため、美しい景観やドライブ観光に役立つ情報等の発信と、地域の素材を使った「食」を提供するシーニックカフェを全道で展開中。
- 各ルートでは、観光客にルート内を周遊していただくため、シーニックカフェを巡るスタンプラリーも実施。



Tokachiheiya Sanroku Route
十勝平野・山麓ルート

Stamp Rally
6/1(水)~10/10(月)

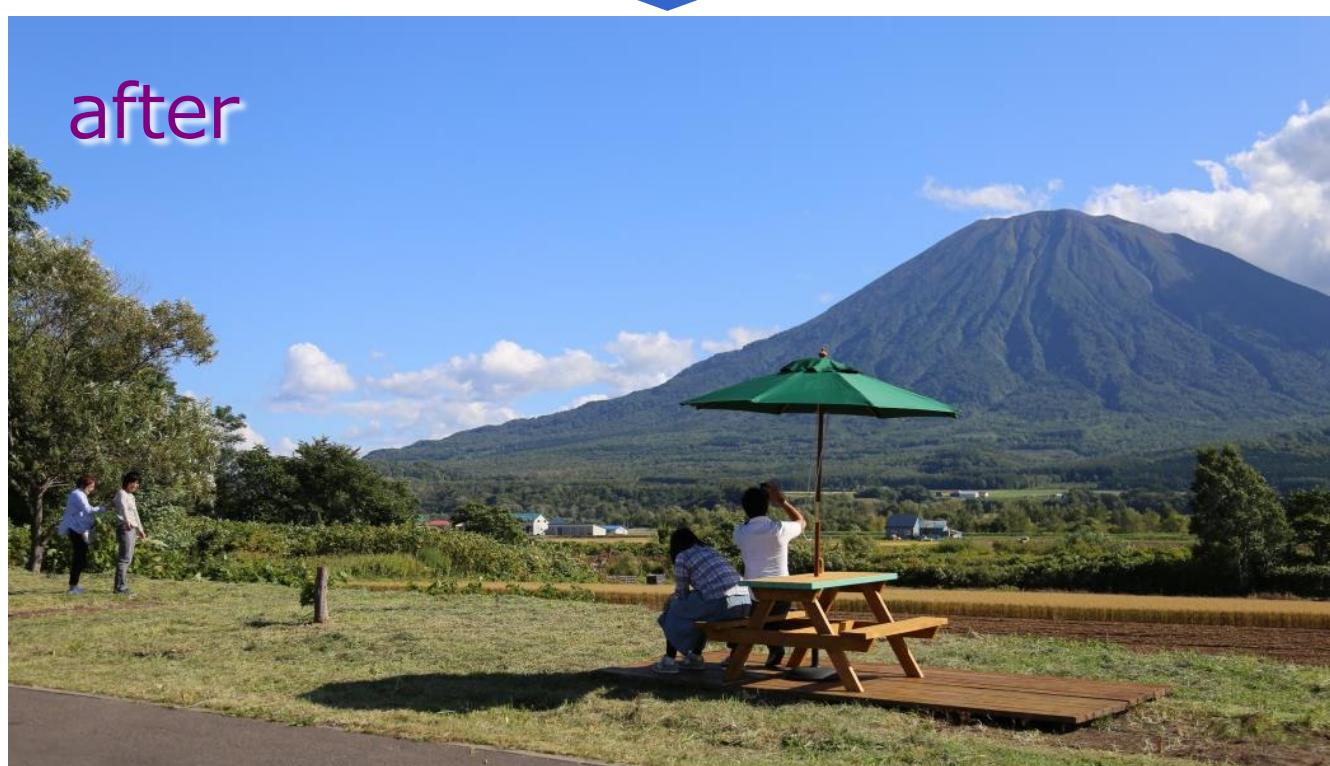
シーニックカフェスタンプ
1 2 3 4 5
6 7 8 9 10
11

スタンプラリー応募要項
お問い合せ先

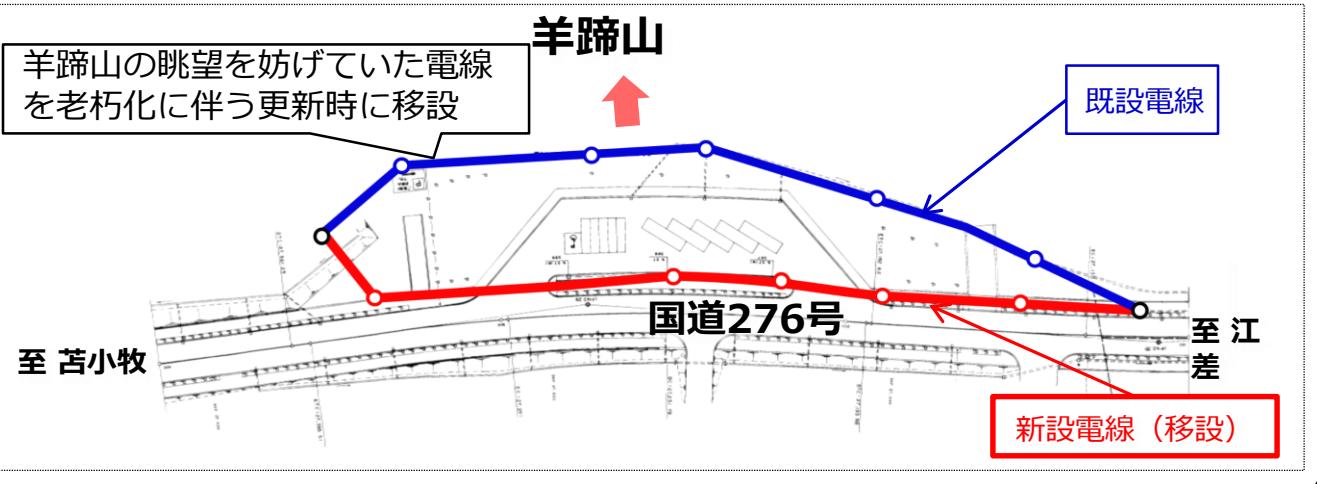
<p>① YORKSHIRE FARM (登録済)</p> <p>100%の有機栽培野菜が年間約400トン、2000頭の牛を飼育しています。7月から8月の期間限定で、新鮮な野菜を使ったランチの提供を行います。平日は10時から18時まで、週末は10時から19時までです。</p> <p>TEL: 011-200-19150 〒011-200-19150 TEL: 0116-64-4948</p>	<p>② 旧丹精練ミュージアム&カフェ (登録済)</p> <p>旧丹精練製糖工場跡地に、カフェとミュージアムを併設しています。丹精練製糖の歴史を学ぶことができます。カフェでは、地元産の素材を使ったメニューを提供しています。</p> <p>TEL: 011-200-19150 〒011-200-19150 TEL: 0116-64-4948</p>	<p>③ 美幌亭 (登録済)</p> <p>歴史ある建物で、地元産の食材を使ったメニューを提供しています。和食、洋食、そばなど、幅広いメニューがあります。</p> <p>TEL: 011-200-19150 〒011-200-19150 TEL: 0116-64-4948</p>	<p>④ カフェデザイン サルビア (登録済)</p> <p>カフェとデザインスタジオを併設しています。地元産の素材を使ったメニューを提供しています。デザインスタジオでは、地元産の素材を使ったデザイン作品の制作も可能です。</p> <p>TEL: 011-200-19150 〒011-200-19150 TEL: 0116-64-4948</p>
<p>⑤ カントリーババ (登録済)</p> <p>農場直営のレストランで、地元産の食材を使ったメニューを提供しています。和食、洋食、そばなど、幅広いメニューがあります。</p> <p>TEL: 011-200-19150 〒011-200-19150 TEL: 0116-64-4948</p>	<p>⑥ 士幌高原ヌプカの里 (登録済)</p> <p>士幌高原の美しい景観を堪能できるカフェです。地元産の素材を使ったメニューを提供しています。</p> <p>TEL: 011-200-19150 〒011-200-19150 TEL: 0116-64-4948</p>	<p>⑦ ナイタイ高原牧場 レストラン (登録済)</p> <p>高原の美しい景観を堪能できるカフェです。地元産の素材を使ったメニューを提供しています。</p> <p>TEL: 011-200-19150 〒011-200-19150 TEL: 0116-64-4948</p>	<p>⑧ 三国峠cafe (登録済)</p> <p>三国峠の美しい景観を堪能できるカフェです。地元産の素材を使ったメニューを提供しています。</p> <p>TEL: 011-200-19150 〒011-200-19150 TEL: 0116-64-4948</p>
<p>⑨ レストランあしよ (登録済)</p> <p>レストランで、地元産の食材を使ったメニューを提供しています。和食、洋食、そばなど、幅広いメニューがあります。</p> <p>TEL: 011-200-19150 〒011-200-19150 TEL: 0116-64-4948</p>	<p>⑩ ソフトクリーム工房 (登録済)</p> <p>ソフトクリームの工房で、地元産の素材を使ったメニューを提供しています。和食、洋食、そばなど、幅広いメニューがあります。</p> <p>TEL: 011-200-19150 〒011-200-19150 TEL: 0116-64-4948</p>	<p>⑪ tomono (登録済)</p> <p>カフェで、地元産の素材を使ったメニューを提供しています。和食、洋食、そばなど、幅広いメニューがあります。</p> <p>TEL: 011-200-19150 〒011-200-19150 TEL: 0116-64-4948</p>	<p>⑫ 十勝川温泉 (登録済)</p> <p>十勝川の美しい景観を堪能できるカフェです。地元産の素材を使ったメニューを提供しています。</p> <p>TEL: 011-200-19150 〒011-200-19150 TEL: 0116-64-4948</p>

- ◆シーニックバイウェイ北海道にてシーニックカフェの登録制度を設けている
- ◆シーニックカフェの登録条件
北海道の美しい景観を、安全、快適に楽しむことができる「場」と「飲食」を提供していること又は、北海道の美しい景観に関する情報やドライブ観光情報等の発信を行っている「場」と「飲食」を提供していること
※シーニックバイウェイ北海道推進協議会にて登録

- 国道276号倶知安町「^{やほた}八幡ビューポイントパーキング」は、地域のシンボルである羊蹄山が一望できるスポットであるが、電線が眺望の妨げとなっていた。
- 電線管理者に働きかけ、電柱の老朽化による更新に伴い電線に移設し、羊蹄山を望む景観を大幅に改善。



- 【「シーニックバイウェイ北海道」の取組により実現】
- 平成15年度に「シーニックバイウェイ北海道」の取組として、「支笏洞爺ニセコルートニセコ羊蹄エリア」の活動団体と道路景観診断を実施
 - 平成28年度に電柱の老朽化に伴い、更新のタイミングで眺望を妨げない位置に移設する協議を電線管理者と実施
 - 平成29年8月に電柱の移設工事を実施



【シーニックデッキのリニューアル～世界最高水準の景観実現に向けて～】

「支笏洞爺ニセコルートニセコ羊蹄エリア」の活動団体である「WAOニセコ羊蹄再発見の会」が、設置から約10年経過しているシーニックデッキをリニューアル電線の見えない化に加えて、地域と連携して、景観向上のためのさらなる取組を実施



協働・連携事業2

「わが村は美しくー北海道」運動

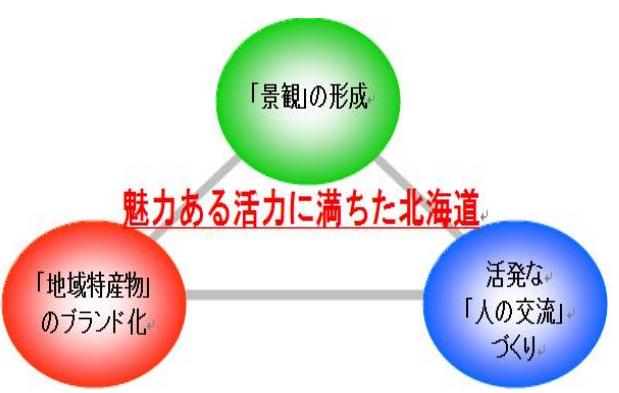
「わが村は美しくー北海道」運動



- 北海道開発局では、地域住民主体の地域振興活動を支援するために、「わが村は美しくー北海道」運動を展開。
- 「景観」・「地域特産物」・「人の交流」の3つの要素から、北海道にあるたくさんの「地域資源」をみつけ、「いいもの」を多くの人に伝えていくため、コンクールを開催。
- コンクールは、道内各地で地域の魅力と活力を高めようとする地域住民の努力と行動に光をあて、全国に発信。

「わが村は美しくー北海道」運動とは

- 「ドイツ連邦共和国」で行われていた、美しい農村景観をたたえるコンクールを参考に、平成13年に「わが村は美しくー北海道」運動を開始。
- “運動”とは、地域住民が主体となり、北海道の農山漁村・農林水産業を通じて地域づくりを行う活動に対して、様々な立場の人たちが「参加しよう」「広げよう」「いいもの伝えよう」をキャッチフレーズに地域活動にかかわっていきこうというものです。



これまでのコンクールの展開状況

- これまでのコンクールの参加市町村は、全道の93%にあたる166市町村。
- コンクール参加団体数は、複数応募を除き779団体、延べ応募数では、1,111団体。また、受賞団体数は、延べ220団体。(3部門制開催の第5回までは金銀銅75、部門統合した第6回以降145)

		第1回 H13-14	第2回 H15-16	第3回 H17-18	第4回 H19-20	第5回 H21-22	第6回 H24-25	第7回 H26-27	第8回 H28-29	計
参加団体数 (重複応募を除いた団体数)		114 (114)	160 (119)	170 (122)	169 (100)	200 (130)	113 (73)	99 (64)	86 (57)	1,111 (779)
景観	金	-	-	-	-	-	大賞 3	大賞 3 特別賞 2	大賞 2 特別賞 3	
	銀	4	-	1	-	1				
	銅	-	2	1	1	1				
特産物	金	2	2	2	2	2	優秀賞 14 奨励賞 34	優秀賞 14 奨励賞 30	優秀賞 14 奨励賞 26	
	銀	2	2	2	1	2				
	銅	2	3	2	3	3				
交流	金	2	1	1	1	2				
	銀	2	3	3	2	2				
	銅	3	3	2	3	2				

「わが村は美しくー北海道」運動からの飛躍

(先行事例)

- 絵本の里けんぶち VIVAマルシェ**
- H24~25 第6回コンクール応募 (奨励賞受賞)
 - H26~27 第7回コンクール応募 (大賞受賞)
 - H27 「ディスカバー農山漁村の宝」で優良事例に選定
 - H29 法人化「(株)けんぶちVIVAマルシェ」



- NPO法人 美しい村・鶴居村観光協会**
- H24~25 第6回コンクール応募
 - H28 「ディスカバー農山漁村の宝」で優良事例に選定



- 国際トラクターBAMBA実行委員会**
- H17~18 第3回コンクール応募
 - H19~20 第4回コンクール応募
 - H21~22 第5回コンクール応募 (人の交流部門で金賞受賞)
 - H28 第14回「オーライ!ニッポン大賞」受賞



「ディスカバー農山漁村の宝」
内閣官房と農林水産省が、農山漁村の活性化の優良事例を選定、顕彰することにより、同様の取組を全国に広げようとする取組。首相官邸での交流会も開催。

「オーライ!ニッポン大賞」
オーライ!ニッポン会議 (代表: 養老孟司東大名誉教授) と農林水産省が主催。都市と農山漁村を人々が活発に「往来」(おうらい)し、双方の生活文化を楽しむことで、日本がall right (オーライ。健全。)になることを目指す国民運動。

「観光」を支える施策の推進

将来の北海道の地域構造イメージ

人口減少下での地域構造は、
北海道型広域コンパクト＋ネットワーク
＋
生産性向上＋魅力向上

ご静聴ありがとうございました